

# わが家の「緊急・救急情報」防災メモ

非常時・緊急時に活用してもらいたいわが家の情報です。災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関などに情報を提供します。連絡してほしい方などの情報を記入しましょう。

わが家の避難先	土砂災害時・洪水時	地震時
家族が離れているときの集合場所	土砂災害時・洪水時	地震時

氏名	連絡先	会社・学校	血液型	かかりつけ医・常備薬

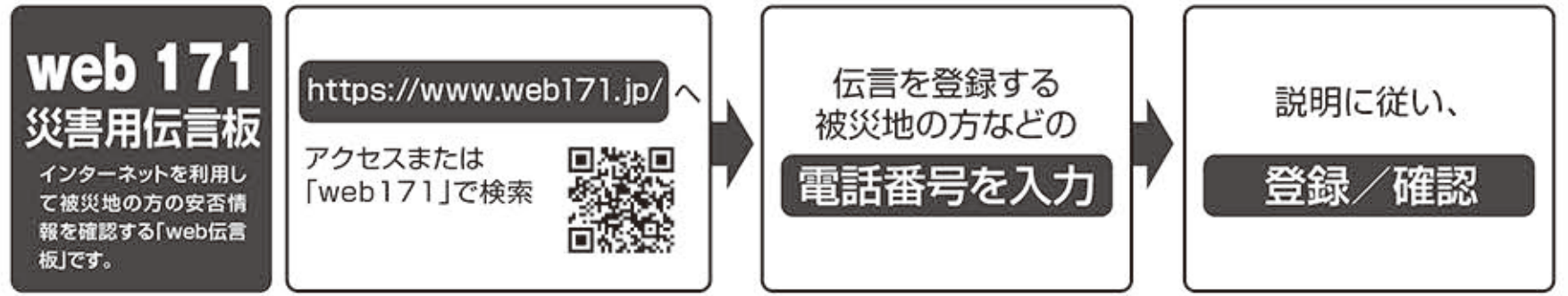
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

緊急ダイヤル 消防へ火事・救急・救助の連絡 **119** 警察へ事件・事故の連絡 **110**

あなたの無事を伝えましょう 体験利用日:「毎月1日および15日」、「正月三日」、「防災週間」、「防災とボランティア週間」



## 災害用伝言板(パソコン・スマートフォン用)



# 矢板市 防災ハザードマップ

～大切な命を守るために～



矢板市キャラクター ともなりくん

さまざまな災害に備えましょう

保存版



災害への備え

災害対策

避難・地図について

避難所

全体索引図

詳細図

# もくじ

もくじ	1	火災対策	12
5段階の警戒レベル	2	雪害対策	13
避難行動判定フロー	3	竜巻・雷対策	14
マイ・タイムライン	4	避難の種類	15
災害時の情報伝達	5	避難するときの心得	16
災害の「備え」チェックリスト	6	地域ぐるみで防災に取り組もう	17
風水害対策	7	ハザード情報について	18
土砂災害対策	8	避難所一覧	19
地震が起きたら	9	全体索引図	20
揺れやすさマップ	10	詳細図1~18	21~54
地震対策	11	わが家の「緊急・救急情報」防災メモ	裏表紙

## 本書の活用方法について

- 住んでいる場所と予想される危険箇所を地図上で確認しましょう
- 避難先を確認しましょう
- 避難経路を考えてみましょう
- 家族や周辺住民と情報を共有しましょう



## 家族みんなで防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざというときにあわてず行動できるよう、本書を活用いただき、家族で普段から話し合っておきましょう。

- 家具の置き方、工夫していますか？
- 食料・飲料などの備蓄、十分ですか？
- 非常用持ち出しバッグの準備、できていますか？
- 安否確認方法、決まっていますか？
- 避難先や避難経路、確認していますか？
- 関連お役立ちサイト、把握していますか？
- もしものときの情報収集、していますか？



## 地域の防災力を高める 自助・共助・公助

地震や洪水、台風などの自然災害による被害は、わたしたちの日ごろの努力によって減らすことが可能です。行政による「公助」はいうまでもありませんが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくするための大きな力となります。ただし、身のまわりの人を助けるには、まず自分自身が無事であればなりません。「自助」があつての「共助」です。災害が起こってからでは間に合いません。いざというときに備え、適切な行動ができるよう日常的に防災を意識しましょう。



# 5段階の警戒レベル

避難情報など (警戒レベル)			防災気象情報 (警戒レベル相当情報)			
警戒レベル 状況	住民がとるべき行動	避難情報	警戒 レベル	河川氾濫	大雨	土砂災害
<b>5</b> 災害発生 または切迫	<b>命の危険 直ちに 安全確保！</b>	<b>緊急安全 確保</b>	<b>5</b> 相当	<b>氾濫 特別警報</b>	<b>大雨 特別警報</b>	<b>土砂災害 特別警報</b>
~~~~~ 警戒レベル4までに必ず避難！ ~~~~~						
<b>4</b> 災害の おそれ高い	<b>危険な場所から 全員避難</b>	<b>避難指示</b>	<b>4</b> 相当	<b>氾濫 危険警報</b>	<b>大雨 危険警報</b>	<b>土砂災害 危険警報</b>
<b>3</b> 災害の おそれあり	<b>危険な場所から 高齢者等は避難</b>	<b>高齢者等 避難</b>	<b>3</b> 相当	<b>氾濫警報</b>	<b>大雨警報</b>	<b>土砂災害 警報</b>
<b>2</b> 気象状況 悪化	<b>自らの避難 行動を確認</b>	—	<b>2</b>	<b>氾濫 注意報</b>	<b>大雨 注意報</b>	<b>土砂災害 注意報</b>
<b>1</b> 今後気象状況 悪化のおそれ	<b>災害への 心構えを 高める</b>	—	<b>1</b>	<b>早期注意情報</b>		

矢板市は、**河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)**のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に**避難情報など(警戒レベル)**の発令判断をすることから、**警戒レベルと警戒レベル相当情報**が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。  
※河川水位や雨の情報は、令和7年11月に閣議決定し、令和7年12月に気象庁が発表した内容です。  
令和8年5月下旬(予定)から新たな防災気象情報の運用を開始します。

避難に時間のかかる**高齢者や障がいのある人等**は、

**警戒レベル3 高齢者等避難**で危険な場所から避難しましょう。



**警戒レベル4 避難指示**で危険な場所から**全員避難**しましょう。



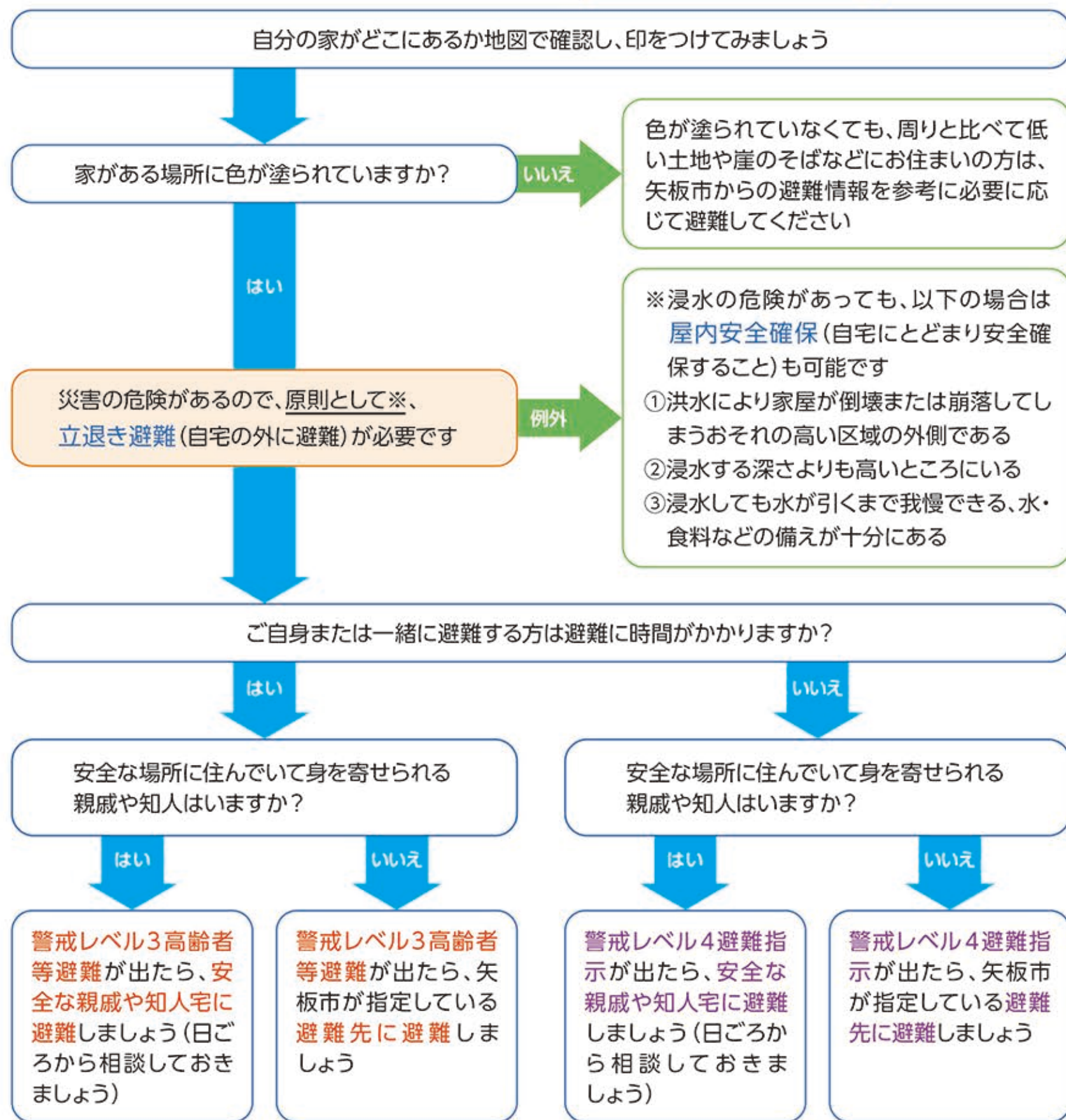
**警戒レベル5 緊急安全確保**は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。**自宅の上の階や崖から離れた部屋に移動**しましょう。



# 避難行動判定フロー

台風・豪雨時に備えて地図と一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取り組みましょう**



❗ 警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

❗ 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難先に行く必要はありません。

❗ 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

# マイ・タイムライン

災害時のあなたの行動を書きましょう。

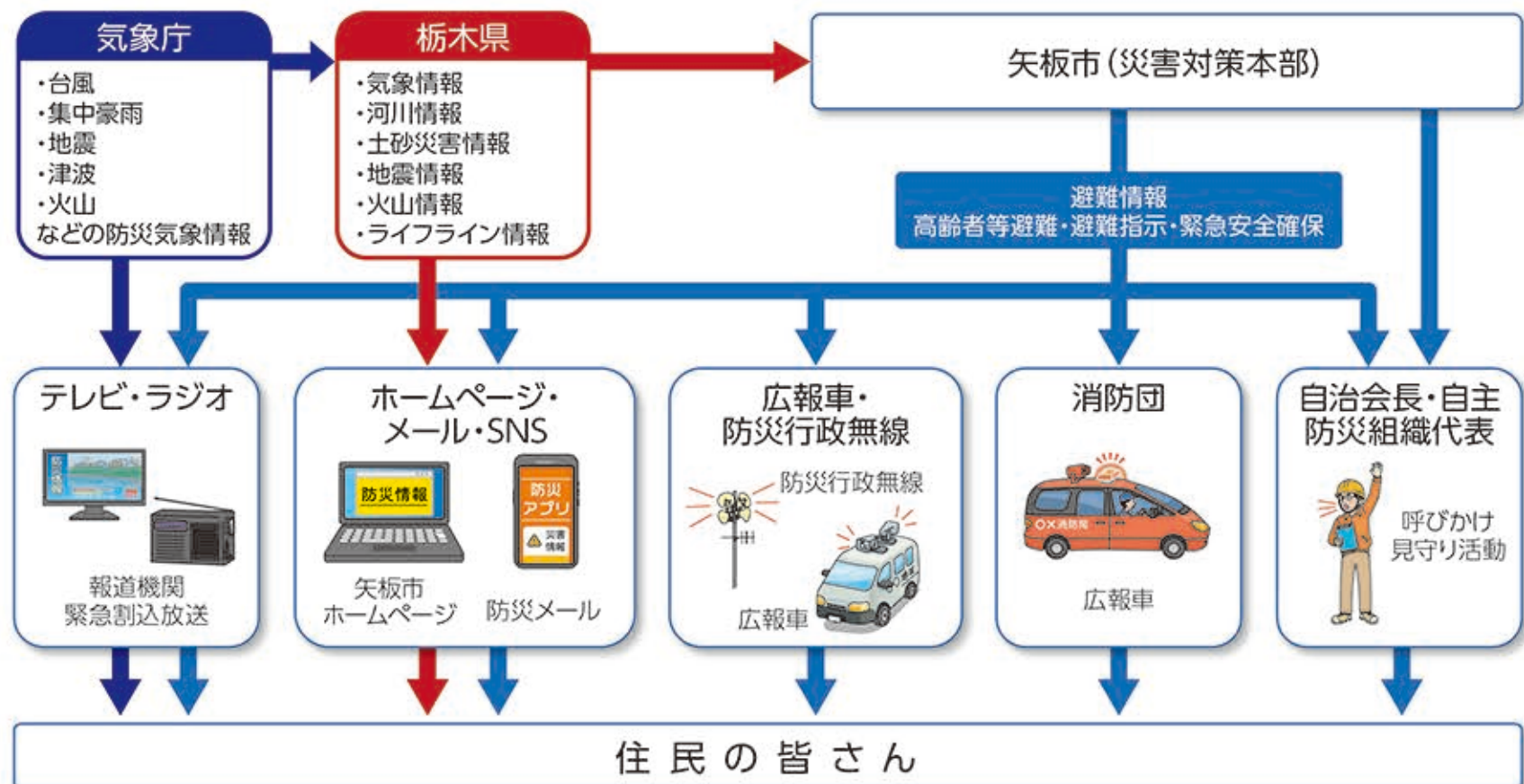
家族で決めた避難先・集合場所、連絡方法は裏表紙のメモに書き込みましょう。

災害発生までの時間	気象情報・避難指示など	〈例〉主な備えと行動	わが家の行動計画 (左の例を参考に書いてみましょう)
5日前	台風に関する気象情報 台風が発生  台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる	<ul style="list-style-type: none"> <li>○台風の今後の調べ始める</li> <li>○家の周りに風で飛ばされるようなものはないか確認</li> <li>○テレビ、インターネット、携帯メールなどで雨や川の様子に注意</li> <li>○避難するときに持っていくものを準備する</li> <li>○家族と連絡を取り合う</li> </ul>	
1/2日前	大雨注意報・洪水注意報 氾濫注意水位到達 雨が集まって、川の水がだんだん増える  激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住んでいるところと上流の雨量を調べ始める</li> <li>○川の水位を調べ始める</li> <li>○避難しやすい服装に着替える</li> <li>○携帯電話、スマートフォンを充電する</li> <li>○携帯メールなどで高齢者等避難を受信</li> <li>◎高齢者等は避難開始</li> </ul>	
5時間前	避難判断水位到達 高齢者等避難 川の水があふれそうになる 	<b>高齢者等避難完了!!</b>	
3時間前	氾濫危険水位到達 避難指示 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○携帯メールなどで避難指示を受信</li> <li>◎安全なところへ移動を始める</li> </ul> <b>全員避難完了!!</b>	
0時間	氾濫が発生 緊急安全確保 川の水が氾濫 	<b>命の危険 直ちに安全確保</b>	

※ 気象庁が発表する大雨注意報などの発表時間は、イメージで記載しています。避難指示などのタイミングは状況によって異なります。矢板市からの発信情報に注意してください。

# 災害時の情報伝達

## 住民への伝達方法



## 情報を集めましょう

### 矢板市の防災情報

#### 「矢板市メール配信サービス」に登録しましょう!

矢板市では、災害などの情報を皆さんの携帯電話やパソコンに電子メールで配信しています。

#### 【配信する情報】

- 地震、大雨、洪水、土砂災害、竜巻などの気象情報や警報
- 高齢者等避難、避難指示などの避難情報
- ゲリラ・特殊部隊攻撃、航空攻撃、弾道ミサイル、大規模テロなどの国民保護情報
- 新着情報、イベント情報(受信可否を各自で選択)

#### 【配信登録方法】

[regist@mobile.city.yaita.tochigi.jp](mailto:regist@mobile.city.yaita.tochigi.jp)

上記メールアドレスに何も書かずにメールを送信してください。その後送られてくるメールの本文に書かれているアドレスに接続して登録を行ってください。



#### 【注意】

- サイト上の説明事項をよく読み、サービス内容をご確認のうえでご登録ください。
- 配信情報を受信するには、ポケット通信料などががかかりますのでご了承ください。

#### 防災行政無線

緊急・災害情報、行政に関する情報などを市内101箇所に設置した屋外スピーカーからお知らせします。また、緊急時に一般電話が不通になったときや停電した場合に、市役所と無線で情報のやり取りを行うことができます。



### 栃木県の防災情報

<b>テレビ(データ放送)</b> 震度や波の高さ、発令されている警報・注意報など  リモコンのdボタンから展開	<b>気象庁</b> 気象警報・注意報、大雨危険度、キキクル(危険度分布)、気象情報、地震情報など 	<b>防災とちぎ</b> 緊急情報、気象情報、災害情報 	<b>国土交通省 川の防災情報</b> 防災情報、河川水位や雨量などの観測情報など 	<b>東京電力 停電情報</b> サービスエリア内で発生している停電情報 
-------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------------------	---------------------------------------------

# 災害の「備え」チェックリスト

## 非常用持ち出し袋 避難の際に持ち出すもの

- 水
- 食品  
(ご飯(アルファ米など)、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パンなど:最低3日分の用意)
- 防災用ヘルメット・防災ずきん
- 衣類・下着
- レインウェア
- ひもなしのズック靴
- 懐中電灯(※手動充電式が便利)
- 携帯ラジオ(※手動充電式が便利)
- 予備電池・携帯充電器
- マッチ・ろうそく
- 救急用品  
(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など)
- 使い捨てカイロ
- ブランケット
- 軍手
- 洗面用具
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- タオル
- ペン・ノート

#### 一緒に持ち出そう……

- 貴重品  
(通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど)
- スマートフォンなど



#### ……感染症対策にも有効です……

- マスク
- 手指消毒用アルコール
- 石けん・ハンドソープ
- ウェットティッシュ
- 体温計



#### 子どもがいる家庭の備え

- ミルク(キューブタイプ)
- 使い捨て哺乳瓶
- 離乳食
- 携帯カトラリー
- 子ども用紙オムツ
- お尻ふき
- 携帯用お尻洗浄機
- ネックライト
- 抱っこひも
- 子どもの靴

#### 女性の備え

- 生理用品
- おりものシート
- サニタリーショーツ
- 中身の見えないごみ袋
- 防犯ブザー/ホイッスル

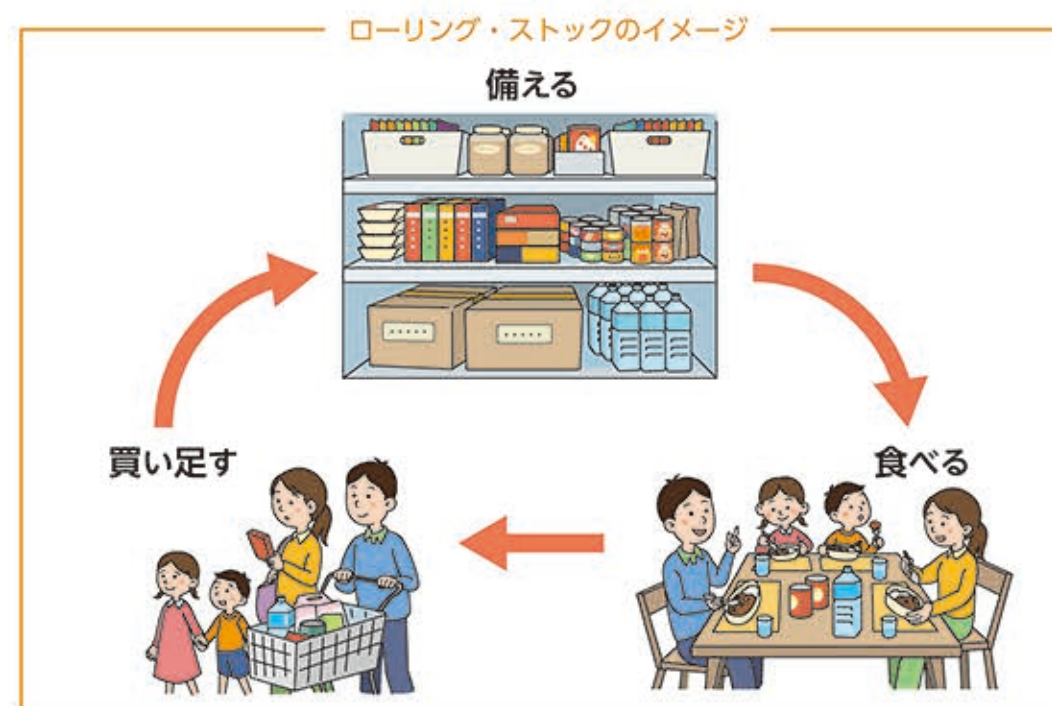
#### 高齢者がいる家庭の備え

- 大人用紙パンツ
- 杖
- 補聴器
- 介護食
- 入れ歯・洗浄剤
- 吸水パッド
- デリケートゾーンの洗浄剤
- 持病の薬
- お薬手帳のコピー

## 備蓄品 家に備えておくもの

### ……食料・飲料・生活必需品などの備蓄の例(人数分用意しましょう)……

- 食料や水(最低3日分、できれば1週間分)×家族分  
保存期間の長いものを多めに買って置き、消費したら補充するという習慣にしていれば、常に食料の備蓄が可能(ローリング・ストック)
- 飲料水  
3日分(1人1日3リットルが目安)
- 非常食  
3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど
- 生活用品  
ティッシュ、トイレトペーパー、マッチ・ろうそく、カセットコンロ、ラップ、ごみ袋、ポリタンク、携帯用トイレ(1人1日5枚程度使うと想定し×7日分)など



ほかにも、家庭に必要なものは日ごろから備えておきましょう

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を揃えるようにしましょう。

# 風水害対策

## 大雨情報をキャッチ!

こんなときの  
わが家の安全対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。普段から気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

### 大雨特別警報

大雨により重大な災害の起こるおそれが大きく、大きいと予想される場合に発表する警報

### 大雨危険警報

大雨により重大な災害の起こるおそれ大きく、大きいと予想される場合に発表する警報

### 大雨警報

大雨により重大な災害の起こるおそれがあると予想される場合に発表する警報

### 大雨注意報

大雨により災害が起こるおそれがあると予想される場合に発表する予報

### 気象防災速報 (記録的短時間大雨)

大雨警報が発表されているときに、数年に1回程度発生する激しい短時間の大雨を観測、または解析したことを発表する情報

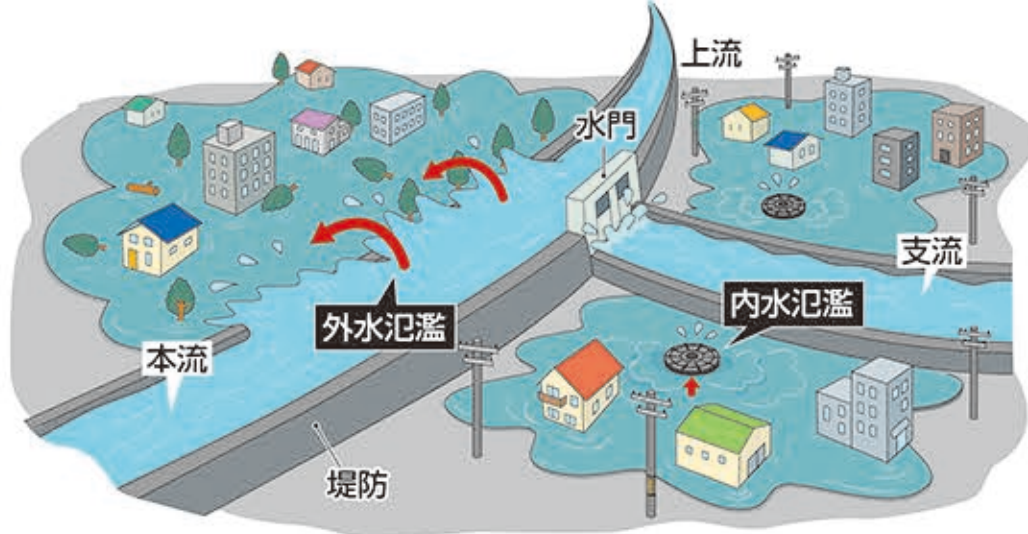
### 気象防災速報 (線状降水帯発生)

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で実際に降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報

## 氾濫の種類

### 外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防を越えたり破堤するなどして堤防から水があふれ出す。



### 内水氾濫

下水道・支川等の雨水排水能力を上回り浸水する。あるいは河川水位の上昇により、下水道・支川等から河川へ放流できず浸水する。

## 雨の強さと降り方 [雨量の単位は1時間に降る雨量(mm)]

防災気象情報の中で「激しい雨」「非常に強い風」などと表現される雨や風は実際どのような降り方、吹き方をするのでしょうか。雨・風の強さに応じた人や建物などへの影響のしかたを示した表によって、雨や風の強さを数値だけでなく具体的なイメージで防災気象情報をより身近なものにしましょう。

10~20mm未満

やや強い雨

ザーザーと降る



20~30mm未満

強い雨

どしゃ降り



30~50mm未満

激しい雨

バケツをひっくり返したように降る



50~80mm未満

非常に激しい雨

滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)



80mm以上

猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる



## 風の強さと吹き方 [風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)]

10~15m/s未満

やや強い風

風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない

15~20m/s未満

強い風

風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険

20~30m/s未満

非常に強い風

何かにつかまっていけないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある

30m/s以上

猛烈な風

屋外での行動はきわめて危険



# 土砂災害対策

土砂災害を発生させる現象には、主に「土石流」「地滑り」「崖崩れ」の3つの種類があり、これらが発生するときには、何らかの前兆現象が現れることがあります。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人に声をかけあい、いち早く安全な場所に避難することが大切です。

## 土砂災害の種類と前兆現象

### 土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速 20 ~ 40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまうことも。



- 川や沢の中でゴロゴロという石がぶつかり合う音がしたり、火花が見えたりする
- 川や沢の流れがにごり、生木が流れてくる
- 山鳴りがする、腐った土のおいがする。立木が裂ける音がする
- 雨がふり続けているのに川や沢の水が減る

### 地滑り

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。移動土塊量が大きいため甚大な被害が発生。



- 池の水がにごったり、減ったりする
- 山の樹木がザワザワとさわぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする
- 地鳴りや山鳴りがする
- 崖や斜面から水が噴き出す
- 地面にひびわれや段差ができる

### 崖崩れ

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。



- 崖から小石がパラパラ落ちてくる
- 地鳴りがする
- 崖から水がわき出る
- 崖にひびわれができる

## 土砂災害警戒区域について

土砂災害防止法に基づき、都道府県は調査を実施し、土砂災害のおそれのある区域を以下の通り指定しています。

### 土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域

# 地震が起きたら

## 地震発生時の行動マニュアル

### 地震発生

**((( ! )))** まずは身の安全を確保する

#### 緊急地震速報

地震が発生してから、その揺れを検知し、解析して発表する情報です。一般に、緊急地震速報を発表してから強い揺れが到達するまでの時間は、数秒から長くても数十秒程度と極めて短く、場合によっては緊急地震速報が強い揺れの到達に間に合わないことがあります。



#### 屋内にいる場合

##### 一般住宅

- 身を守るため、丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外に飛び出さない
- 火の始末はすばやく行う(火元から離れているときは無理に火を消しに行かない)
- 扉を開けて避難路を確保する

##### 大規模店舗など

- あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う
- つり下がっている照明などの下から退避する

##### エレベーターに乗っているとき

- 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる

#### 屋外にいる場合

##### 路上

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、これらのそばから離れる
- ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる

##### 自動車運転中

- あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけず緩やかに速度を落とす
- ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する

##### 山や崖付近

- 落石や崖崩れに注意し、できるだけその場から離れる

### 揺れがおさまったらやること

- まずは周囲を確認し、身の安全を確保する
- あわてて行動すると、転倒した家具類、飛び散ったガラスの破片等でケガをするおそれがある
- 小さな揺れとき、または揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保する



### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

#### 隣近所に声を掛けよう

- 我が家の安全を確認後、近所にも声を掛けて安否を確認する

#### 出火防止

- 電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を閉める



### 避難の判断

テレビ、ラジオの報道に注意してデマにまどわされないようにしましょう。市役所、消防署、警察署などからの情報には、たえず注意しましょう。不要、不急な電話は、掛けないようにしましょう。特に消防署等に対する災害状況の問い合わせ等は消防活動等に支障をきたすのでやめましょう。

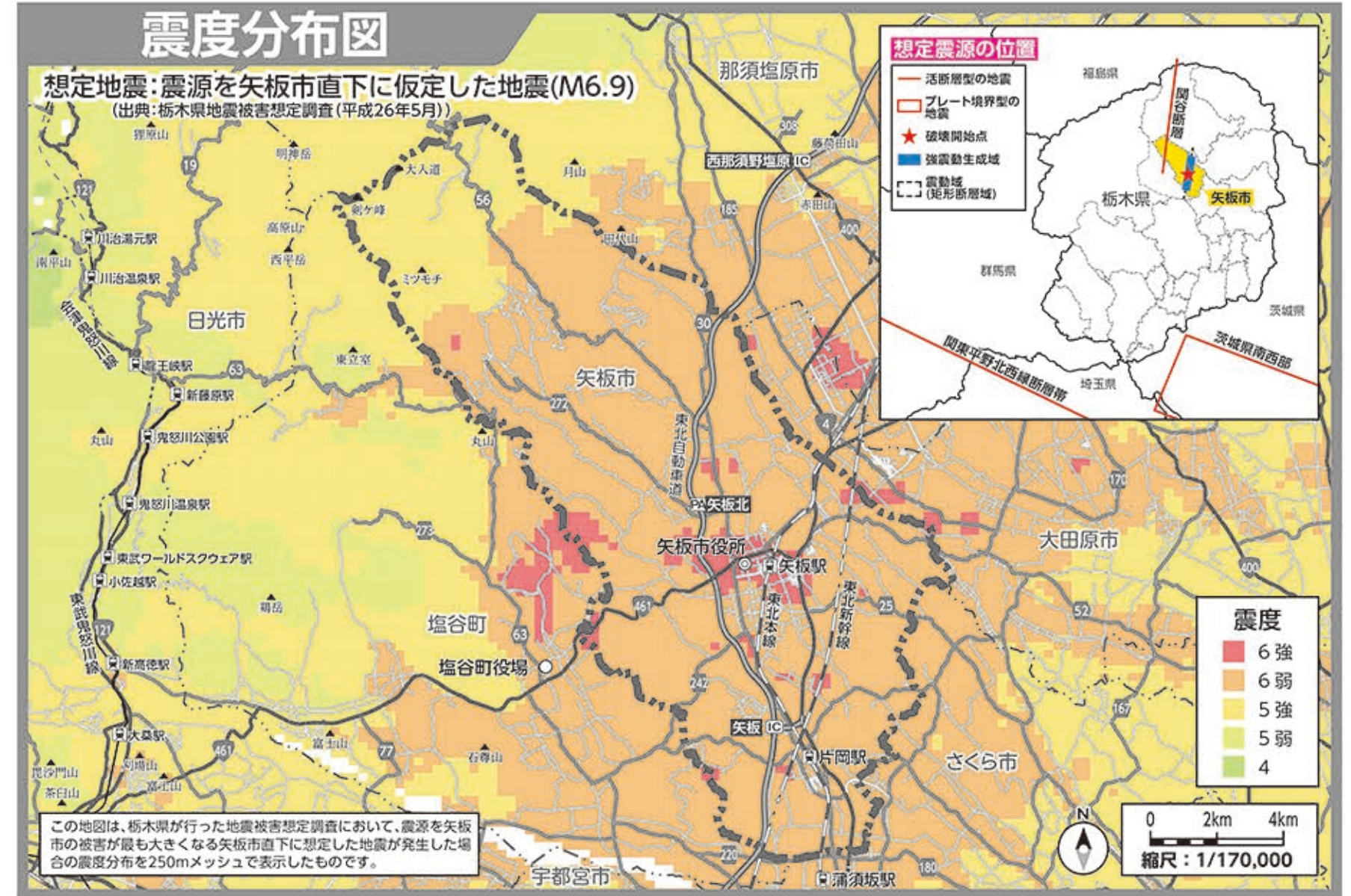


### 避難の行動、救出・救護活動

軽いケガなどの処置は、みんながお互いに協力し合って応急救護しましょう。建物の倒壊や落下物などの下敷きになった人がいたら、地域みんなが協力しあって救出活動を行いましょう。



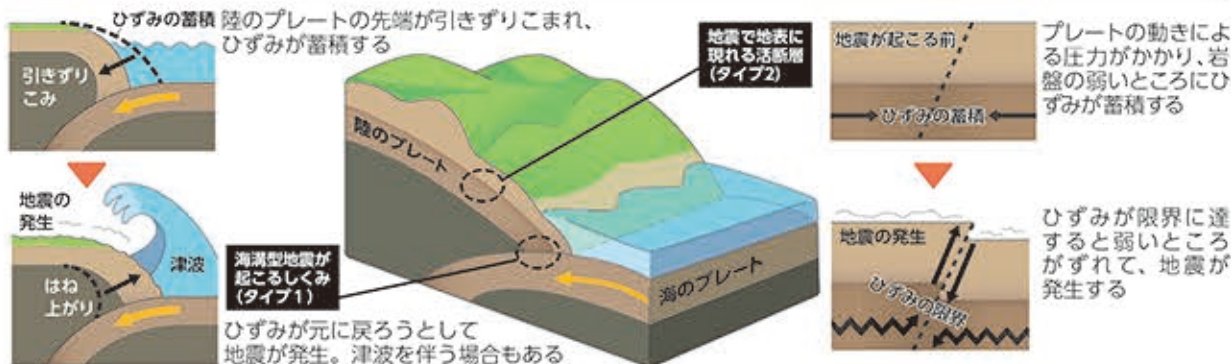
# 揺れやすさマップ



# 地震対策

## 発生のしくみ

地球の表面は、海や陸など十数枚に分かれたプレート(岩盤)で覆われています。海の下では新しいプレートが生まれ、年間数cmの速さで広がって陸のプレートに押し寄せます。海のプレートは陸のプレートより重いので、その下に入りこみます。この圧力によってプレートにひずみがたまり、それが限界に達すると、亀裂が入ったり大きく動いたりします。これが地震なのです。



## 地震によって想定される被害

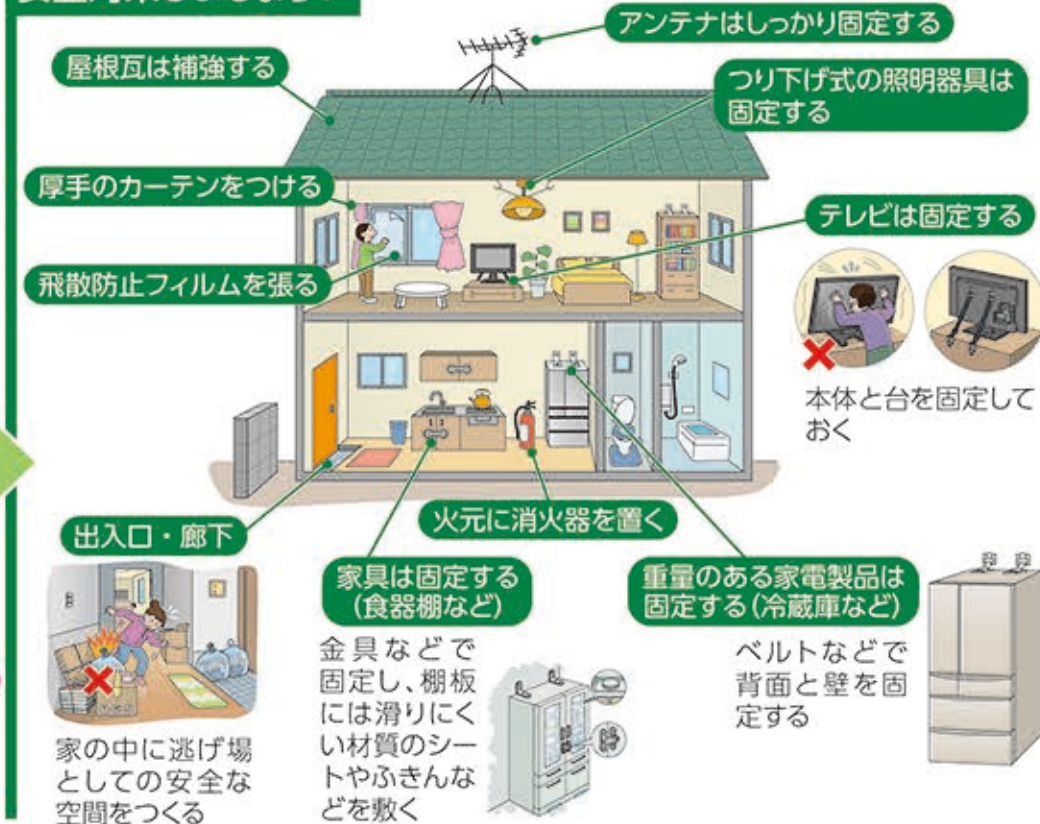
震度4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどの人が驚く</li> <li>○電灯などのつり下げ物は大きく揺れる</li> <li>○座りの悪い置物が、倒れることがある</li> </ul>		震度6弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立っていることが困難になる</li> <li>○壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある</li> <li>○耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある</li> <li>○倒れるものもある</li> </ul>	
震度5弱	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる</li> <li>○棚にある食器類や本が落ちることがある</li> <li>○固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある</li> </ul>		震度6強	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はわないと動くことができない</li> <li>○固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える</li> <li>○耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える</li> </ul>	
震度5強	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物につかまらなさと歩くことが難しい</li> <li>○棚にある食器類や本で落ちるものが増える</li> <li>○補強されていないブロック塀が崩れることがある</li> </ul>		震度7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある</li> <li>○耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える</li> </ul>	

## わが家の安全対策

### 安全対策していないと...



### 安全対策しましょう!



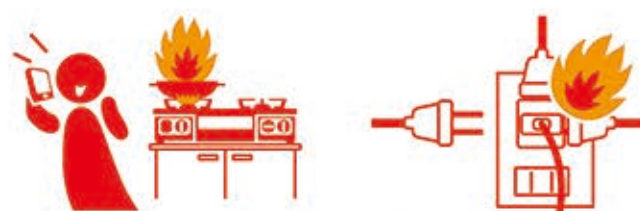
# 火災対策

## いのちを守る11のポイント

### ◆4つの習慣

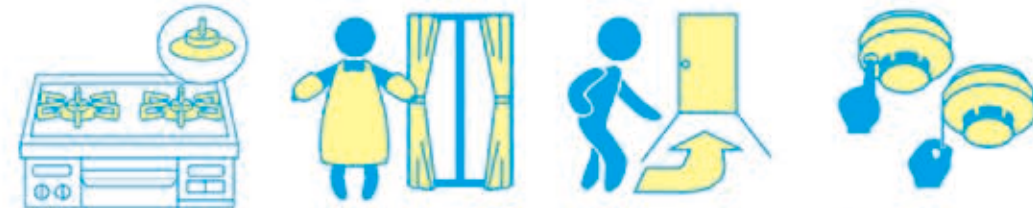


- 寝たばこは絶対しない、させない
- ストーブの周りに燃えやすいものを置かない



- コンロを使うときは火のそばを離れない
- コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く

### ◆7つの対策



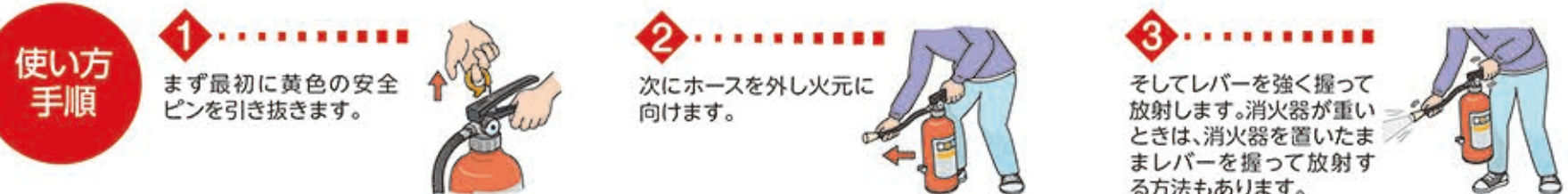
- 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置のついた機器を使用する
- 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類およびカーテンは、防災品を使用する
- 高齢者や身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく
- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する



- 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく
- 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う
- 一定規模以上の揺れを感知すると、ブレーカーを自動的に落として、電気火災を防ぐ感震ブレーカーを設置する

## 消火器の使い方

消火器は、火災の起きている場所の近くまでは片手または両手で搬送し、消火に安全な場所、概ね7、8メートルまで近づきます。そこで操作をしないと運んでいる間に誤射し、火災現場に到着したときには、放射し終わってしまうこともあります。消火器が重く、片手で運べない人は、両手で抱えるように搬送し、障害物にぶつけないよう気をつけて運びます。

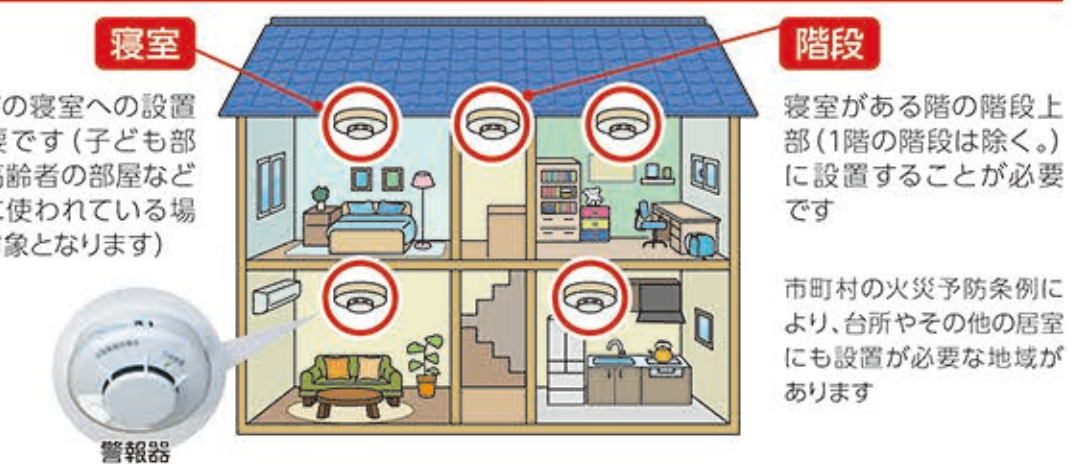


放射の際は、火の根元をねらって、手前からほうきで掃くように消火剤を放射して下さい。消火剤を効果的に放射するため、また、自分の身を守るために消火器は風上から放射します。室内においては、逃げ道を確認し、出入り口を背に放射します。放射時間や放射距離は、本体に必ず表示してありますので確認しておくといでしょう。



## 住宅用火災警報器の設置義務化

家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、知らせてくれるのが、住宅用火災警報器です。住宅用火災警報器は、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発して火災の発生を知らせてくれる機器です。通常は、感知部と警報部が一つの機器の内部に包含されていますので、機器本体を天井や壁に設置するだけで、機能を発揮します。



# 雪害対策

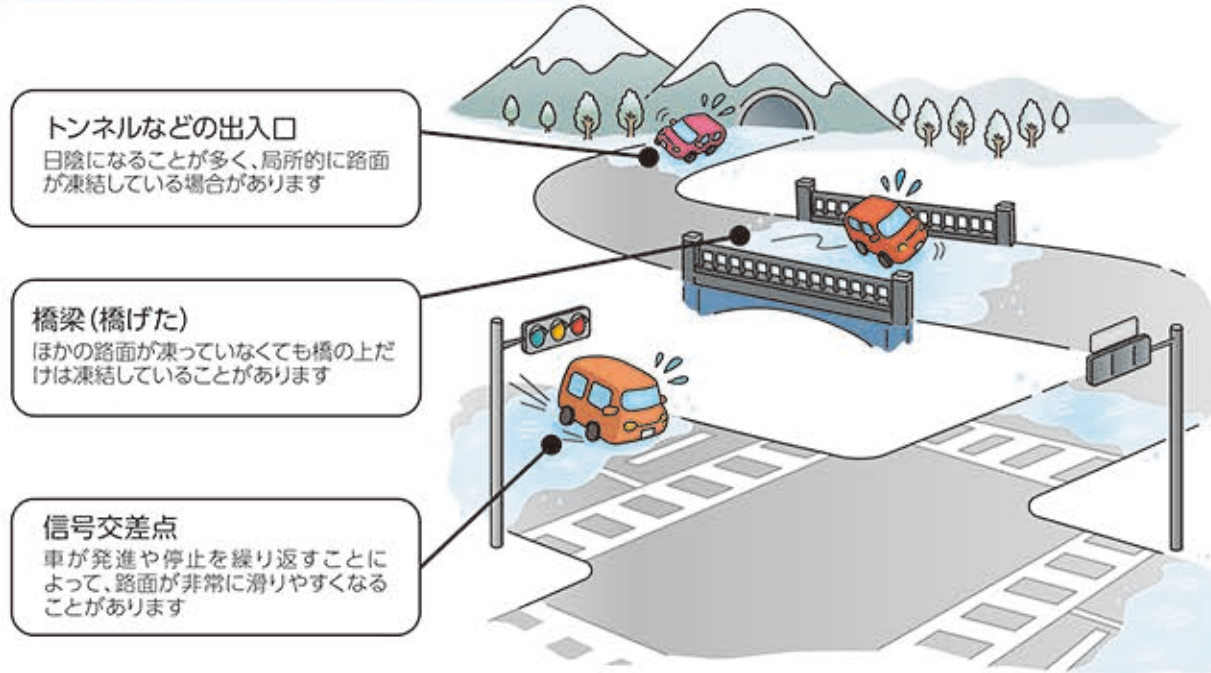
## 大雪災害

雪崩、除雪中の転落事故などの豪雪地帯特有の災害のほか、路面凍結などによる交通事故や歩行中の転倒事故など、豪雪地帯以外でも発生する災害もあります。雪害に遭わないためにも、雪に対する正しい知識を深めておくことが大切です。

## 車による雪道での注意点

降雪時、降雪後には路面の凍結や視程障害(吹雪などによる視界不良)による事故に注意が必要です。

### こんなところでは路面の凍結に注意!



他には...

- スムーズに発進  
マニュアル車なら2速で、オートマ車ならクリーブ現象を利用して、やんわりと発進をしましょう
- フットブレーキを多用しない  
下り坂や交差点ではフットブレーキのみに頼らず、エンジンブレーキを活用しましょう
- カーブでのブレーキ  
カーブ手前の直線のうちにブレーキングやシフトダウンを終わらしましょう
- わだちのある道の運転  
わだちに沿って走った方が車は安定します
- 降雪時・吹雪の運転  
日中でもライトを点灯させ、溜まった雪はデフロスターを使って溶かしましょう

## 除雪中の注意点

雪下ろしの事故の場合、屋根からの転落事故が多く、高齢者や1人での作業中に多く発生しています。油断や過信をすることなく、安全な対策を講じて事故を防ぎましょう。

### 事故防止のポイント



## 歩行者の雪道での注意点

### 歩行時の転倒にも注意! 滑りやすい場所を知りましょう

- 横断歩道の白線の上  
乾いているように見えても薄い氷膜ができて、滑りやすくなっている場合があります。
- 車の出入りのある歩道(駐車場の出入口、ガソリンスタンドなど)  
出入りする車のタイヤで路面上の氷が溶かれ、非常に滑りやすくなっている場合があります。
- バスやタクシーの乗り場  
踏み固められて滑りやすくなっている場合があります。また、歩道と車道との段差にも注意しましょう。
- 坂道  
上りよりも下るときの方が滑って転びやすく危険です。下るときは特に注意しましょう。
- ロードヒーティングの切れ目  
雪や氷が融けておらず段差ができて、部分的に滑りやすい状態になっている場合があります。

## 雪崩(なだれ)から身を守るために

雪崩は、豪雪地帯で暮らす住民だけでなく、スキー・スノーボードや登山、温泉などのレジャー目的で訪れる多くの観光客も巻き込むおそれがあります。厳寒期や春先に発生しやすく、最大で時速200kmとスピードが速いため、発生に気付いてから逃げることは困難です。もしも、雪崩の前兆を発見した場合は決して近づかず、すぐに通報してください。

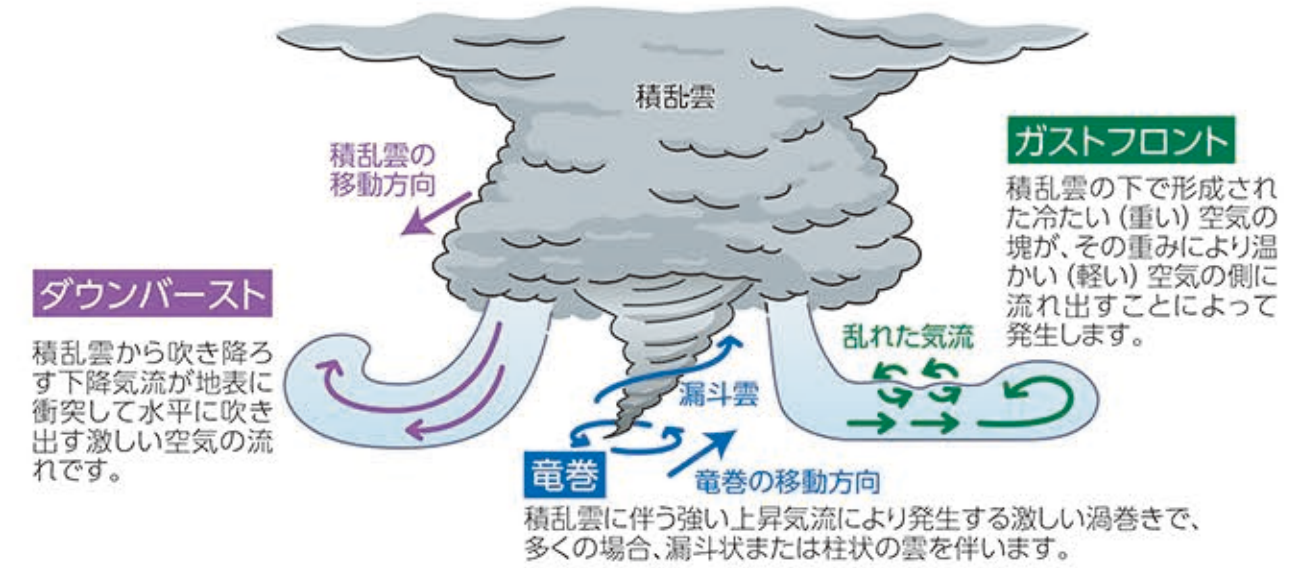
### ■万が一、雪崩発生の際に遭遇したら?

- 雪崩が自分の近くで起きた場合
  - 流されている人を見続けること
  - 仲間が雪崩に巻き込まれた地点(遭難点)と、見えなくなった地点(消失点)を覚えておく
- 自分自身が雪崩に流されてしまった場合
  - 雪崩の流れの端へ逃げる
  - 身体から荷物ははずす
  - 雪の中で泳いで浮上するようにする
  - 雪が止まりそうになったとき、雪の中での空間を確保できるよう、手で口の前に空間を作る

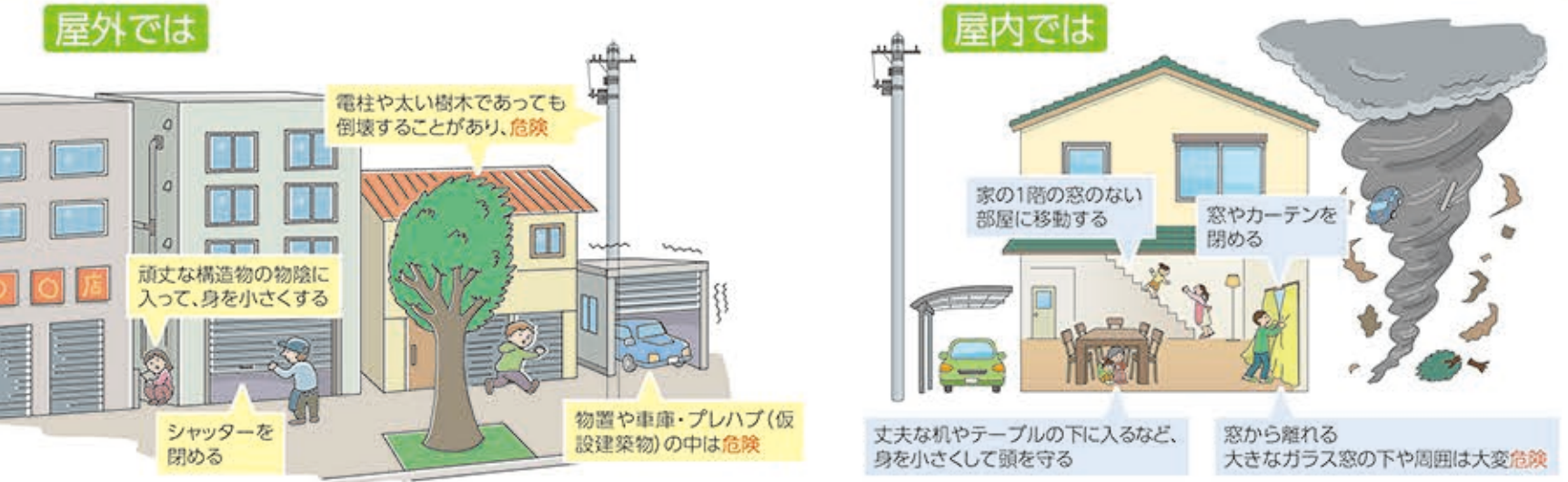
# 竜巻・雷対策

## 突風の種類

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風をもたらす現象が発生します。



## 竜巻から身を守る行動



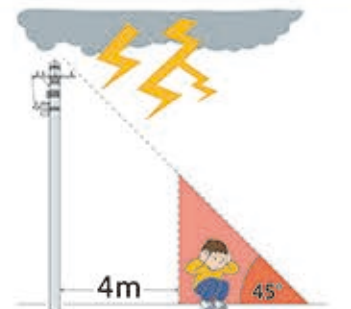
## 雷から身を守るには・・・

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通って落ちる傾向があります。グラウンドや平地が広がる公園、ゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。鉄筋コンクリートの建物、自動車(オープンカーは不可)、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。また、木造建物の内部も基本的に安全ですが、すべての電気器具、天井・壁から1m以上離れば更に安全です。



## 安全な空間に避難できない場合は・・・

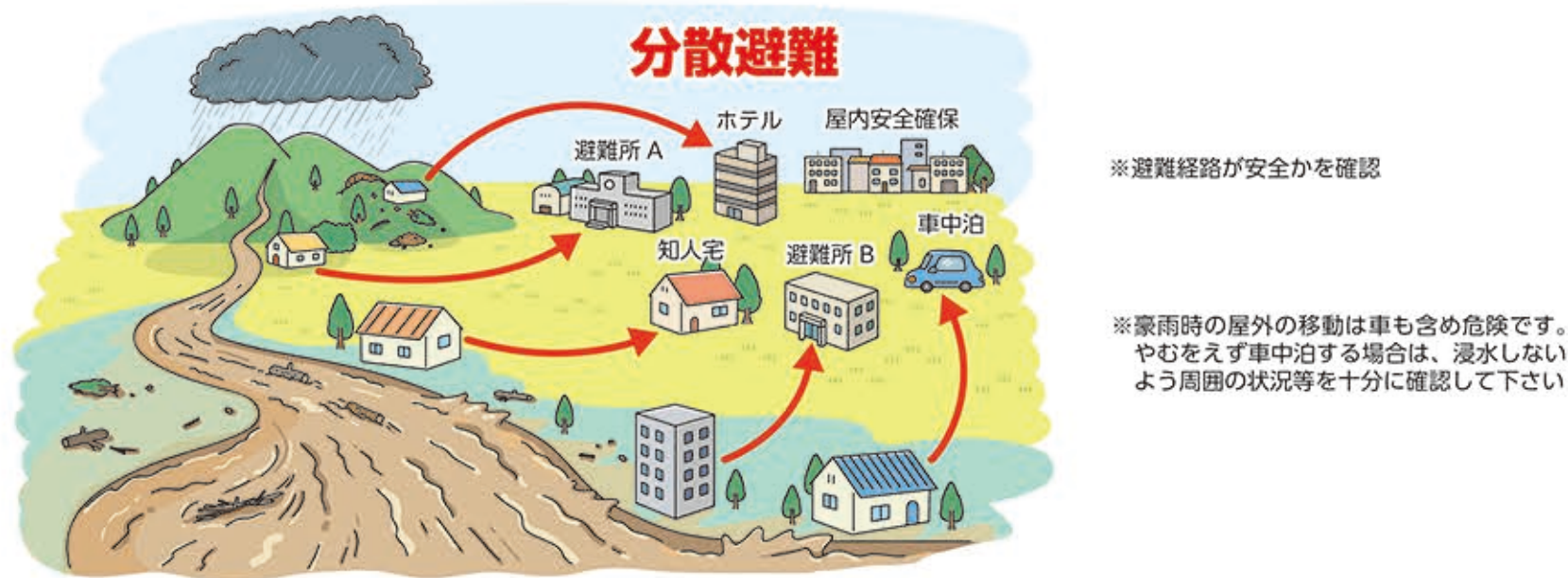
近くに安全な空間がない場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木のすべての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。



雷の音が聞こえたらすでに危険な状態です!安全な建物へ避難しましょう。

# 避難の種類

災害の危険が差し迫っている場合は、安全な場所へ早めに避難することが重要です。ただ、避難所に多くの人が密集すると感染症などの拡大リスクが高まるため、あらかじめ避難所以外の避難先を考える「分散避難」の想定が重要です。



## 立退き避難

災害リスクのある区域等の居住者等が、自宅・施設等においては命が脅かされるおそれがあることからその場を離れ、対象とする災害から安全な場所に移動することが「立退き避難」であり、「立退き避難」が避難行動の基本です。

### 避難所

自宅の被害が想定され生活できない場合、自宅の周囲に不安がある場合などは避難所へ避難しましょう。食料や感染症対策に関する物品を必ず持参しましょう。

### 親戚・知人宅

災害の危険性がない、安全な地域にある親戚や知人宅へ避難しましょう。日ごろから連絡をとって確認しておきましょう。

### ホテル・旅館

災害の危険性がない、安全な地域にあるホテルや旅館へ避難しましょう。通常の宿泊料が必要なので、事前に予約・確認しましょう。

## 屋内安全確保(垂直避難)

災害から身の安全を確保するためには災害リスクのある区域等からの「立退き避難」が最も望ましいですが、洪水等および高潮については、住宅構造の高層化や浸水想定(浸水深、浸水継続時間等)が明らかになってきていることから、災害リスクのある区域等に存する自宅・施設等においても上階への移動や高層階にとどまること等により、計画的に身の安全を確保することが可能な場合があります。この行動が「屋内安全確保」であり、居住者等がハザードマップ等を確認し自らの判断でとる行動です。

**1 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない(入っていると・・・)**

水の流れが速いと、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られると家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

**2 浸水深より居室は高い**

**3 水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分(十分じゃないと・・・)**

水、食料、薬などの確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレなどの使用ができなくなるおそれがあります



※浸水の深さや建物の高さによっては、2階以上に避難  
 ※山や崖から離れた部屋へ垂直方向に避難  
 ※自宅で安全が確保できることがわかっている場合でも、より安全な上層階へ

# 避難するときの心得

## 避難時に注意すること

### ○情報の確認

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報や避難指示等に関する情報を入手しましょう。避難のときは警察・消防・地元の防災責任者などの指示に従って行動しましょう。独断での行動は大変危険です。

なお、すでに災害が発生していたり、暴風や大雨等により避難場所までの移動がかえって命に危険をおよぼしかねない状況では、近隣の堅牢な建物などへ緊急的に移動したり、屋外に出ることさえ危険な場合は自宅の2階以上の崖や沢などからできるだけ離れた部屋等に移動するなど、直ちに身の安全を確保してください。



### ○家の中の備え

電気のブレーカーを下ろす



ガスの元栓を閉める



戸締りをしっかりとする



### ○動きやすい服装、集団での避難

長袖、長ズボンを着用し、ヘルメットや防災ずきんをかぶり、靴は運動靴のような脱げにくいしっかりしたものを履きましょう。非常持ち出し品はリュックに入れて背負い、両手が使えようにしましょう。動きやすい格好で、二人以上の行動を心がけましょう。



### ○避難時の歩き方

浸水した道を歩くときは、水面下にどんな危険があるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確保しながら歩きましょう。また歩ける深さは膝上ぐらいまでです。腰までつかうようなら無理をせず高いところで救助を待ちましょう。



### ○車での避難は危険

避難するときは原則として徒歩で避難しましょう。車を使うと渋滞を引き起こし、消防・救急活動などに支障をきたします。また、自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。自動車での避難は特別の場合を除きやめましょう。



### ○川や用水路を見に行かない

大雨のときに、川や用水路の様子を見に行ったことで流されて被害に遭う場合があります。大雨時には絶対に川や用水路を見に行くことはやめましょう。



### ○地下空間の浸水

地下空間は地上からの情報が入りにくく、災害の状況の把握がしにくく、地上に比べて浸水スピードが速く、ある程度の水深を超えると水圧により扉が開かなくなることや、避難経路も地上出入口や接続ビルの上階に限定されるなど、非常にリスクが高い空間です。浸水の可能性のある地上出入口や想定浸水深等の浸水リスクを事前に把握しておく必要があります。



# 地域ぐるみで防災に取り組もう

## 自主防災組織とは

自主防災組織とは、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の意識を持って、次のような防災活動を行うために自主的に結成する団体のことです。

## 自主防災組織の活動

### 平常時

災害時に効果的な活動ができるよう、避難訓練や備蓄などの必要な災害への備えを行います。避難訓練を企画し、住民への参加を呼び掛け実施します。訓練の際にはハザードマップの活用が浸透するよう住民へ周知することも重要です。早期立退き避難が必要な区域の住民に対しては、年に1度以上の避難訓練を実施するなど防災に関する正しい知識を共有します。各家庭でも災害に備え、自主防災組織への積極的な参加を促します。

### 防災訓練の実施



### 日ごろからの声掛け (要支援者の把握など)



### 防災資機材の整備



### 災害時

自主防災組織は初動対応以降も復旧・復興に向けて、他団体と連携しながら、継続的な活動が求められ、災害時の活動においては、自身および家族の安全確保を前提として活動します。

### 隣近所の安否確認



隣近所に声をかけ合い、要配慮者への早めの避難を促す

### 避難誘導



避難するときは、2人以上で行動する

### 情報収集・伝達



要配慮者への情報伝達方法も記載しておく

隣近所の人と協力しあえば、大きな力が発揮できます。災害の際に被害を軽減し、安全・安心を確保するため、地域の皆さんで自主防災組織をつくりましょう。市は自主防災活動を支援しています。行政区で自主防災活動を行いたい、組織を結成したい、防災訓練を実施したい等の相談がありましたら生活環境局 ☎0287-43-1114 にお問い合わせください。

# ハザード情報について

## 土砂災害警戒区域等について

- 本書は都道府県で整備途中段階の資料を基に作成しています。また、土砂災害警戒区域は都道府県で現在も調査を進めているところ。従って、すべての土砂災害警戒区域についてデータが整備されているわけではありません。
- 土砂災害警戒区域は、土砂災害の危険性がある地域について、定められた条件に適合するか調査した結果から指定されたものであり、実際の土砂災害の発生や被害の範囲を示すものではありません。土砂災害警戒区域以外の範囲でも土砂災害が発生する可能性があります。

## 洪水浸水想定区域について (想定最大規模)

- 洪水浸水想定区域図は、河川の水位周知区間について、水防法の規定により定められた想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示しています。
- この洪水浸水想定区域図は、現時点の河川の河道の整備状況を勘案して、想定最大規模降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫および内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

## ハザードマップの見方

### 土砂災害



- 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)**  
建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域
- 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)**  
住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域

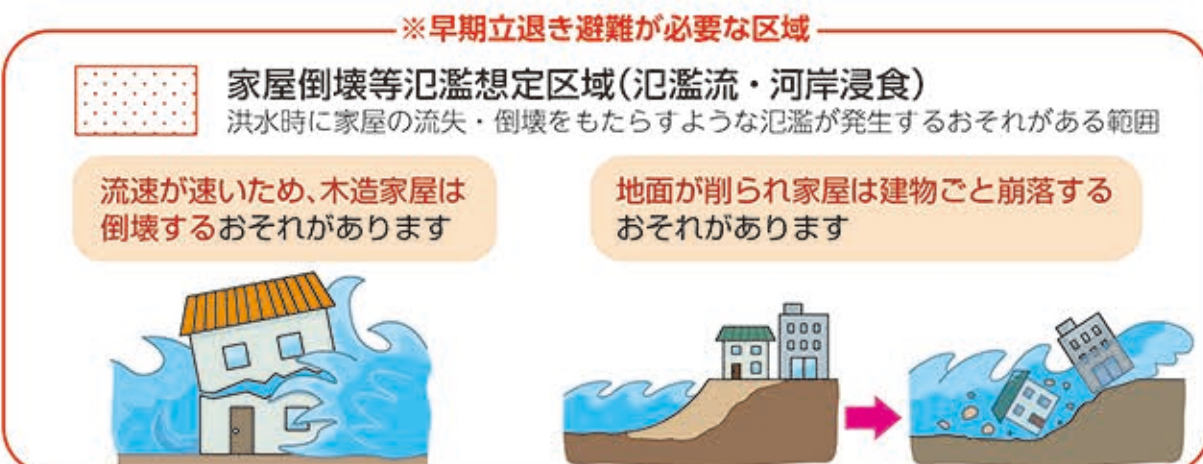


### 水害



※早期立退き避難が必要な区域  
生命・身体に直接影響をおよぼす可能性がある家屋倒壊等氾濫想定区域や浸水深が深い区域など、矢板市が地域の水害特性、社会特性に応じて早期の避難場所等への立退き避難が必要として設定する区域です

### 家屋倒壊



# 避難所一覧

## 指定緊急避難場所

○…避難所として適している △一定の条件下で避難所として利用可能 ×…避難所として適していない

番号	名称	対象地区	所在地	電話(0287)	災害の種類				地図
					洪水	土砂	地震	火事	
1	矢板小学校	矢板市市街地	本町4-23	43-0043	○	○	○	○	12-E-3
2	東小学校		東町616	44-2515	○	○	○	○	12-F-4
3	矢板中学校		上町20-7	43-0144	○	○	○	○	12-D-2
4	矢板東高校		東町4-8	43-1243	○	○	○	○	12-F-4
5	矢板中央高校		扇町2-1519	43-0447	○	○	○	○	12-E-2
6	生涯学習館		矢板106-2	43-6218	×	○	○	○	12-D-3
7	矢板公民館		矢板103-1	43-0469	×	○	○	○	12-D-3
8	矢板市武道館		本町2-22	44-1808	○	○	○	○	12-E-3
9	矢板市文化スポーツ複合施設		末広町49-1	46-5283	○	○	○	○	12-F-3
10	安沢小学校	片岡	安沢1482	48-1005	○	○	○	○	15-A-2
11	片岡小学校		片岡2095-79	48-0510	○	○	○	○	17-A-3
12	乙畑小学校		乙畑1902	48-0610	○	○	○	○	18-E-2
13	片岡中学校		片岡2139	48-0410	○	○	○	○	17-A-2
14	矢板市コミュニティホール		片岡2098-3	48-0101	○	○	○	○	17-A-3
15	片岡トレーニングセンター	片岡1143-1	48-0680	○	○	○	○	16-F-2	
16	旧川崎小学校	西部・南部	木幡1646	-	×	○	○	○	14-D-2
17	城の湯ふれあい館		幸岡18	43-2115	×	×	○	○	14-C-1
18	旧豊田小学校	東部	豊田802	-	○	○	○	○	13-C-3
19	日新体育館		土屋635	-	○	○	○	○	8-F-3
20	農村環境改善センター		沢783	43-4675	○	○	○	○	9-B-4
21	泉小学校	泉	泉378	43-0404	×	○	○	○	8-C-2
22	長井体育館		長井1248	-	×	○	○	○	8-A-4
23	上伊佐野体育館		上伊佐野761-2	-	×	○	○	○	6-B-1
24	泉きずな館・泉体育館		泉526	43-0407	△	○	○	○	8-C-1

### (1)洪水想定浸水区域内 要配慮者利用施設

名称	所在地	地図
特別養護老人ホーム八汐苑	平野1362-12	5-F-2
老人デイサービスセンターやしお苑	平野1362-12	5-F-2
(ショートステイ)特別養護老人ホーム八汐苑	平野1362-12	5-F-2
おひさま	長井1239-1	8-A-4
泉保育所	泉526	8-C-1
グループホームラパス	泉557-1	8-C-1
小規模多機能型居宅介護施設こもれび	泉558	8-C-1
泉小学校	泉378	8-C-2
さくら苑住宅型有料老人ホーム	東泉226-1	8-C-3
さくら苑デイサービスセンター	東泉226-1	8-C-3
春日和やすらぎ	矢板211	12-D-2
テトテ	矢板114-2	12-D-3
国際医療福祉大学塩谷看護専門学校	富田77-6	12-D-4
国際医療福祉大学塩谷病院	富田77	12-D-4
しおや通所リハビリテーション	富田77	12-D-4
サクラケアラーやいた	鹿島町13-14	12-D-4
特別養護老人ホームひだまりの里	川崎反町303	14-D-1
(ショートステイ)ひだまりの里	川崎反町303	14-D-1

### (1)洪水想定浸水区域内 要配慮者利用施設

名称	所在地	地図
老人デイサービスセンターやしお	川崎反町330-1	14-D-1
矢板保育園	木幡1552-1	14-D-1
デイサービスセンターひだまり	木幡1551-3	14-D-1

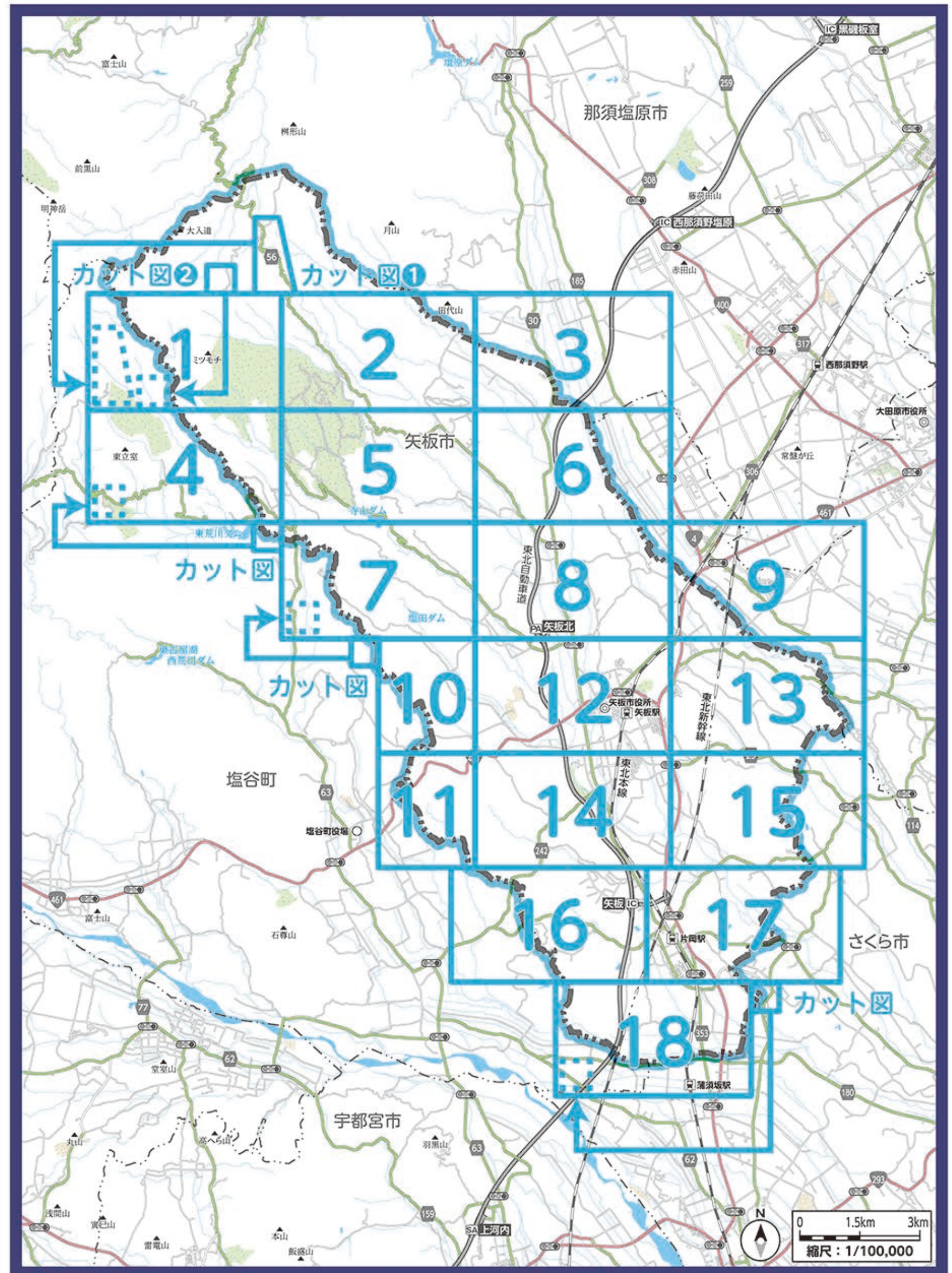
### (2)土砂災害警戒区域内 要配慮者利用施設

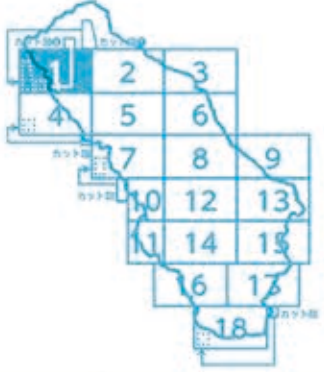
名称	所在地	地図
矢板高校	片俣618-2	12-A-3
佐藤病院・佐藤病院グループホーム	土屋18	9-A-3
矢板南病院	乙畑1735-9	17-B-3

### 防災関連機関

名称	所在地	電話(0287)	地図
矢板市役所	本町5-4	43-1111	12-D-3
矢板消防署	富田94-1	44-2511	14-D-1
矢板警察署	中2001-1	43-0110	12-F-3
矢板駅前交番	扇町1-1-48	44-0780	12-E-3
片岡駐在所	乙畑1453-4	48-0110	17-A-4
泉駐在所	田野原394-1	43-2144	8-C-1
沢駐在所	沢589-2	44-0781	13-C-1

# 全体索引図





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

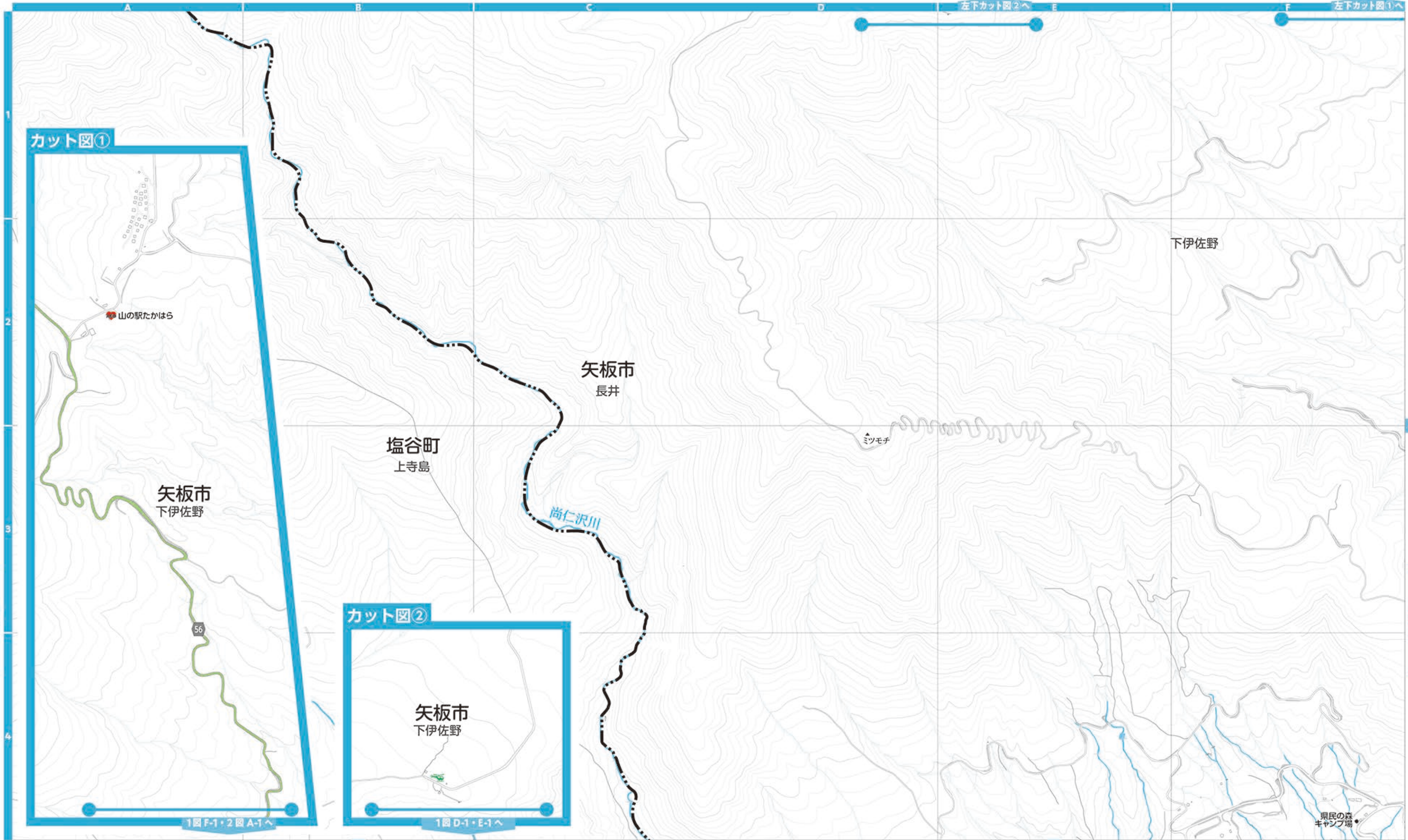
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

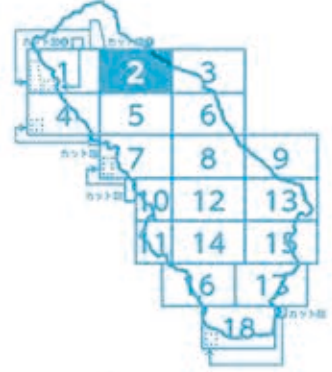
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

0 250m 500m  
縮尺：1/10,000





凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
	医療機関		交番・駐在所
	郵便局		大規模工場
	高速道路		国道
	主要地方道・県道		主要地方道・県道

**河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)**

**早期立退き避難が必要な区域**

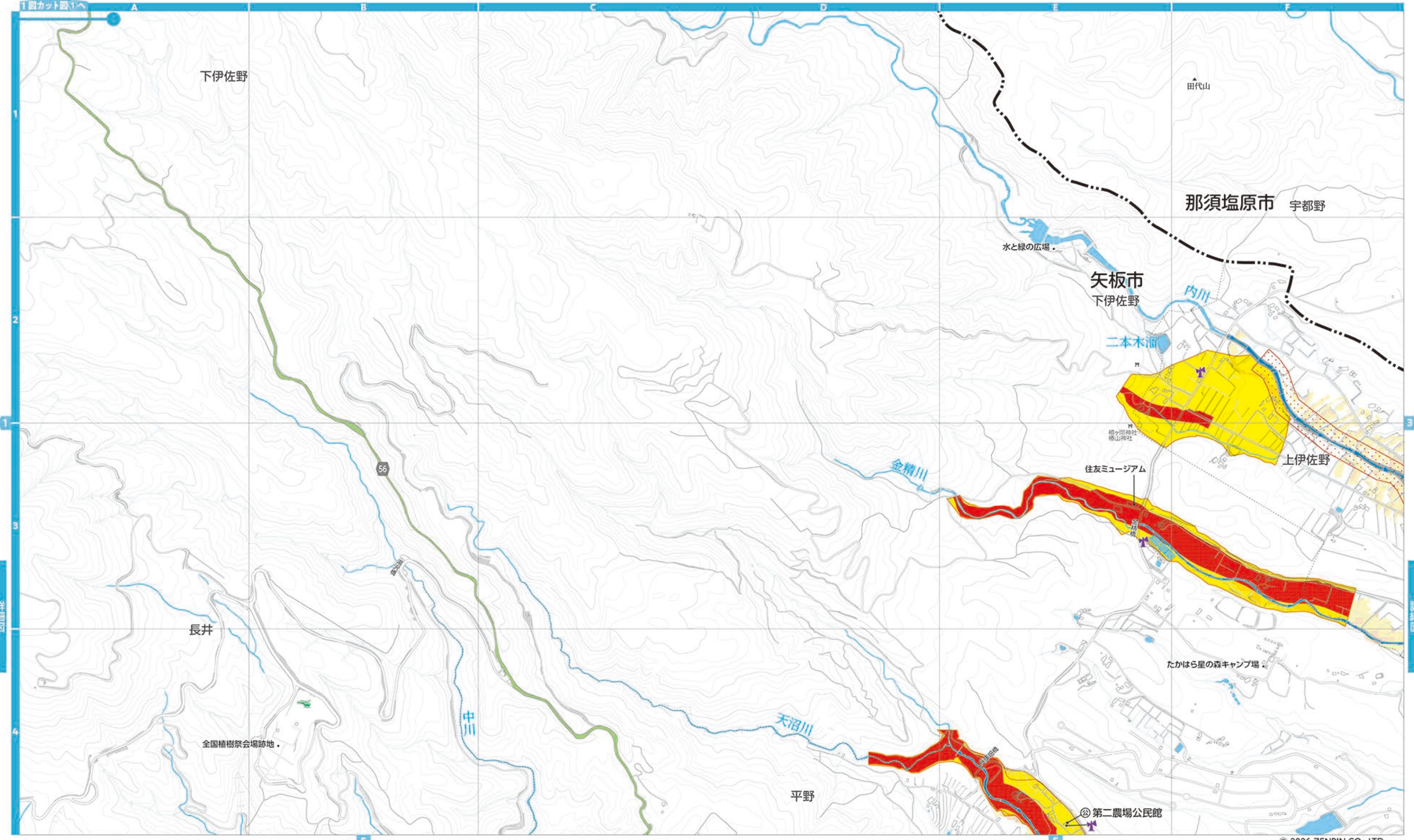
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

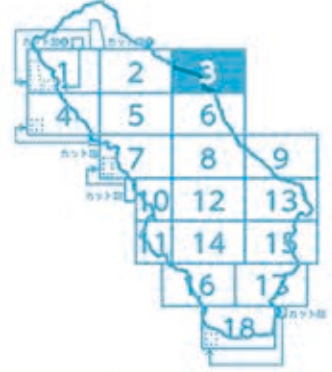
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

**土砂災害警戒区域等**

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

縮尺：1/10,000





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

**河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)**

**早期立退き避難が必要な区域**

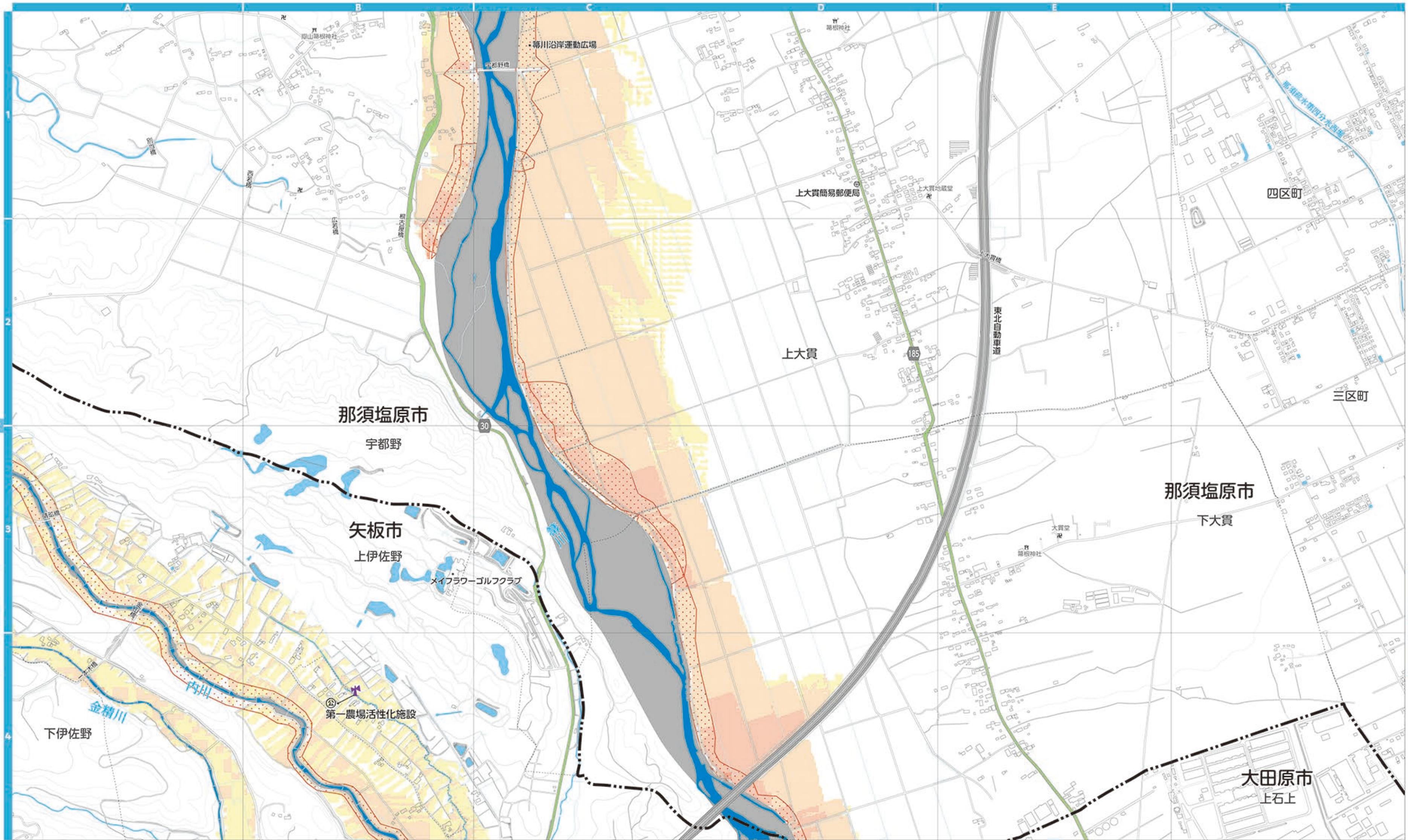
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

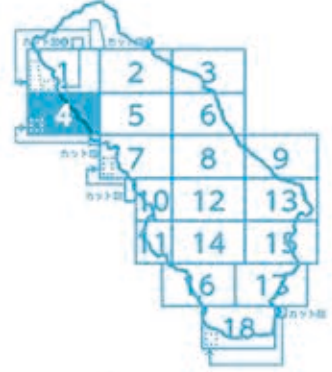
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

**土砂災害警戒区域等**

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

0 250m 500m  
縮尺：1/10,000





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

**河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)**

**早期立退き避難が必要な区域**

- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

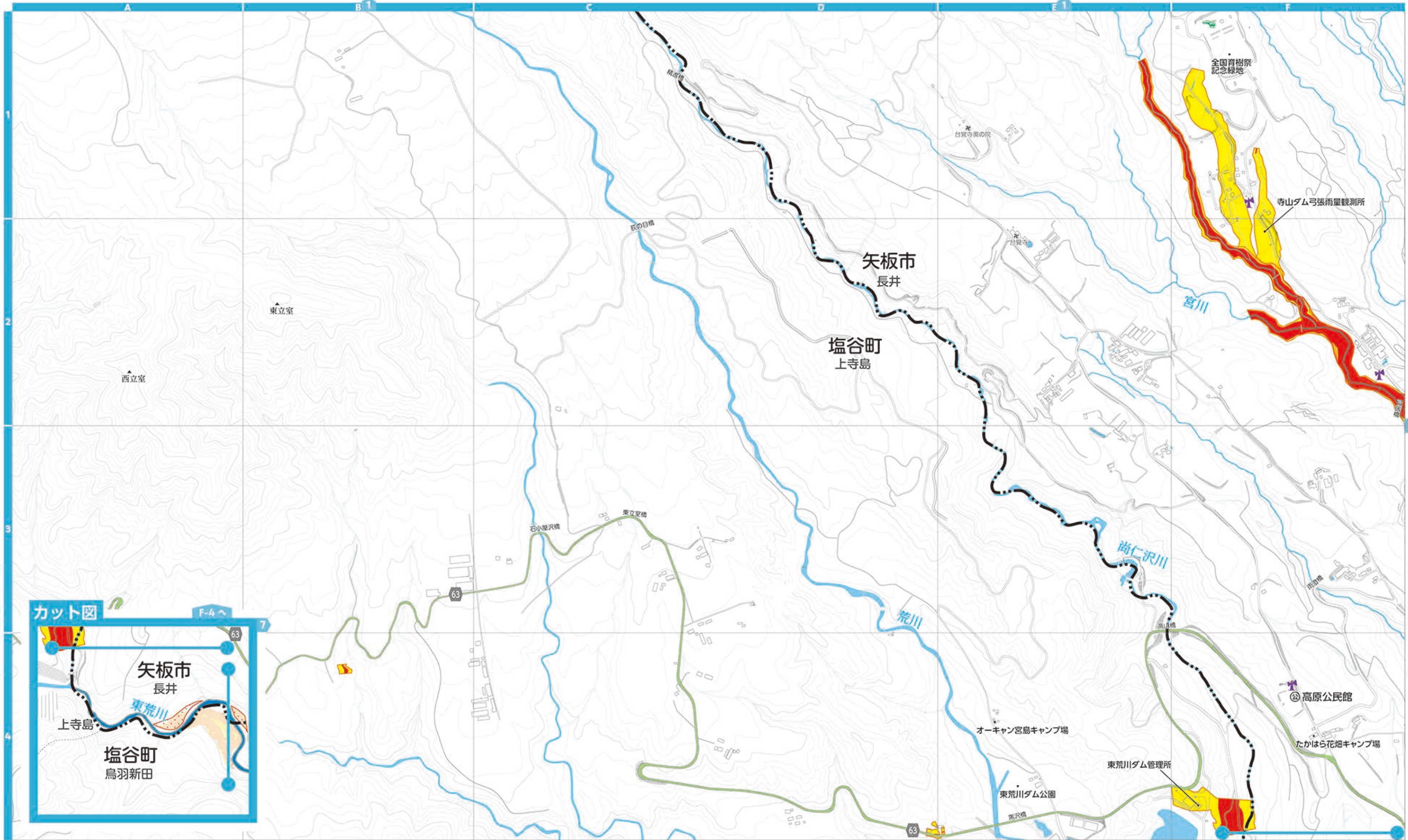
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

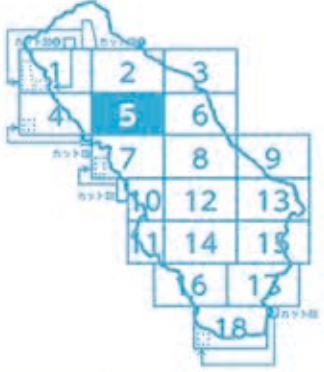
**土砂災害警戒区域等**

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

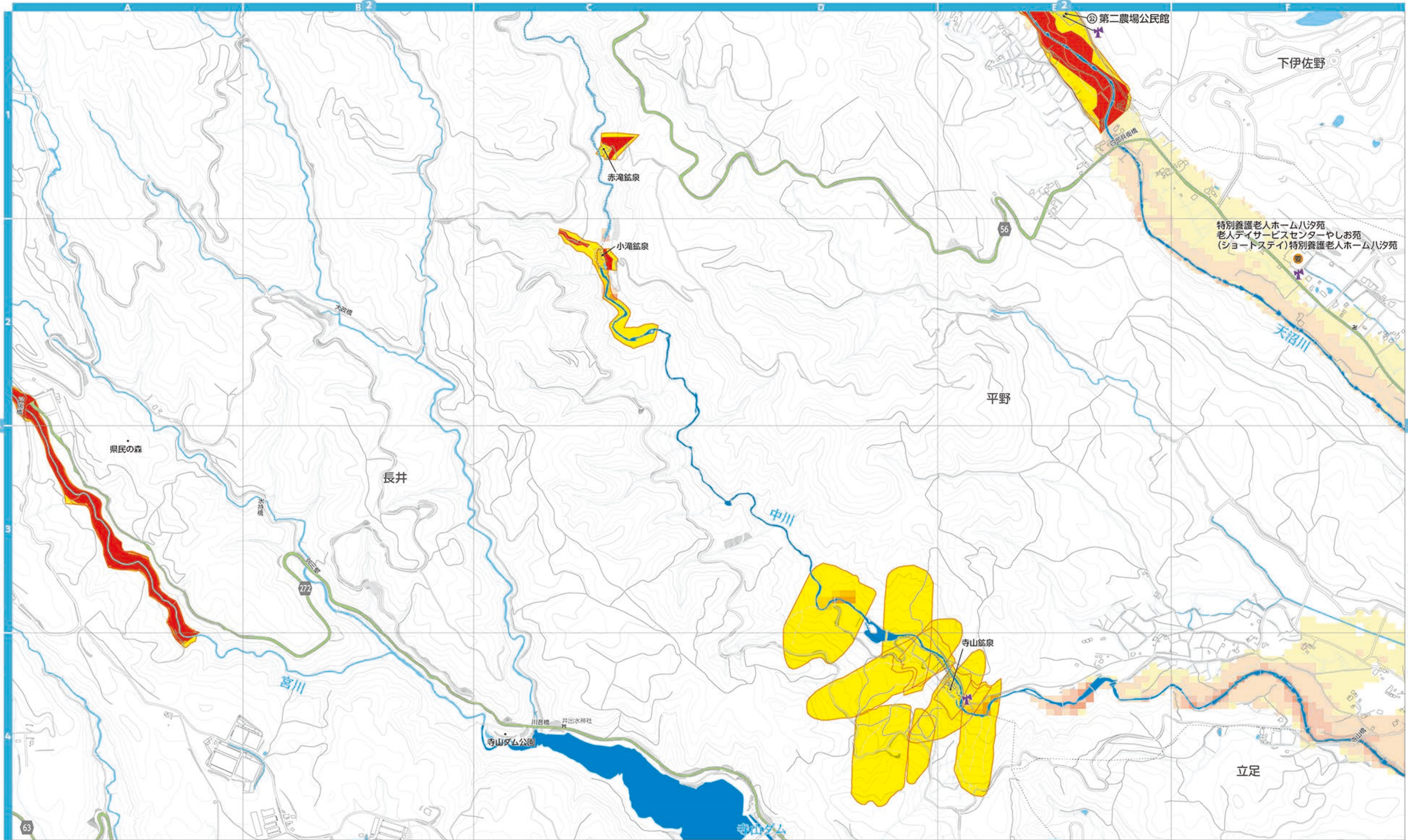
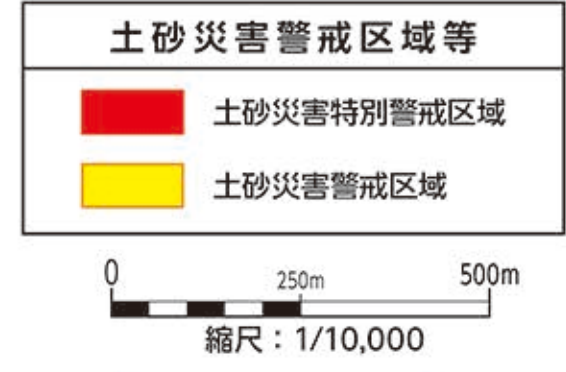
0 250m 500m

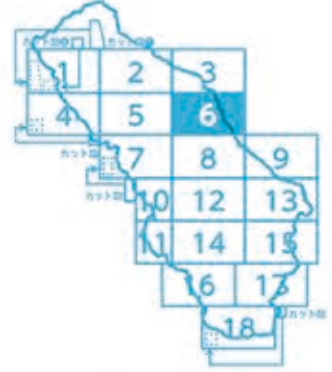
縮尺：1/10,000



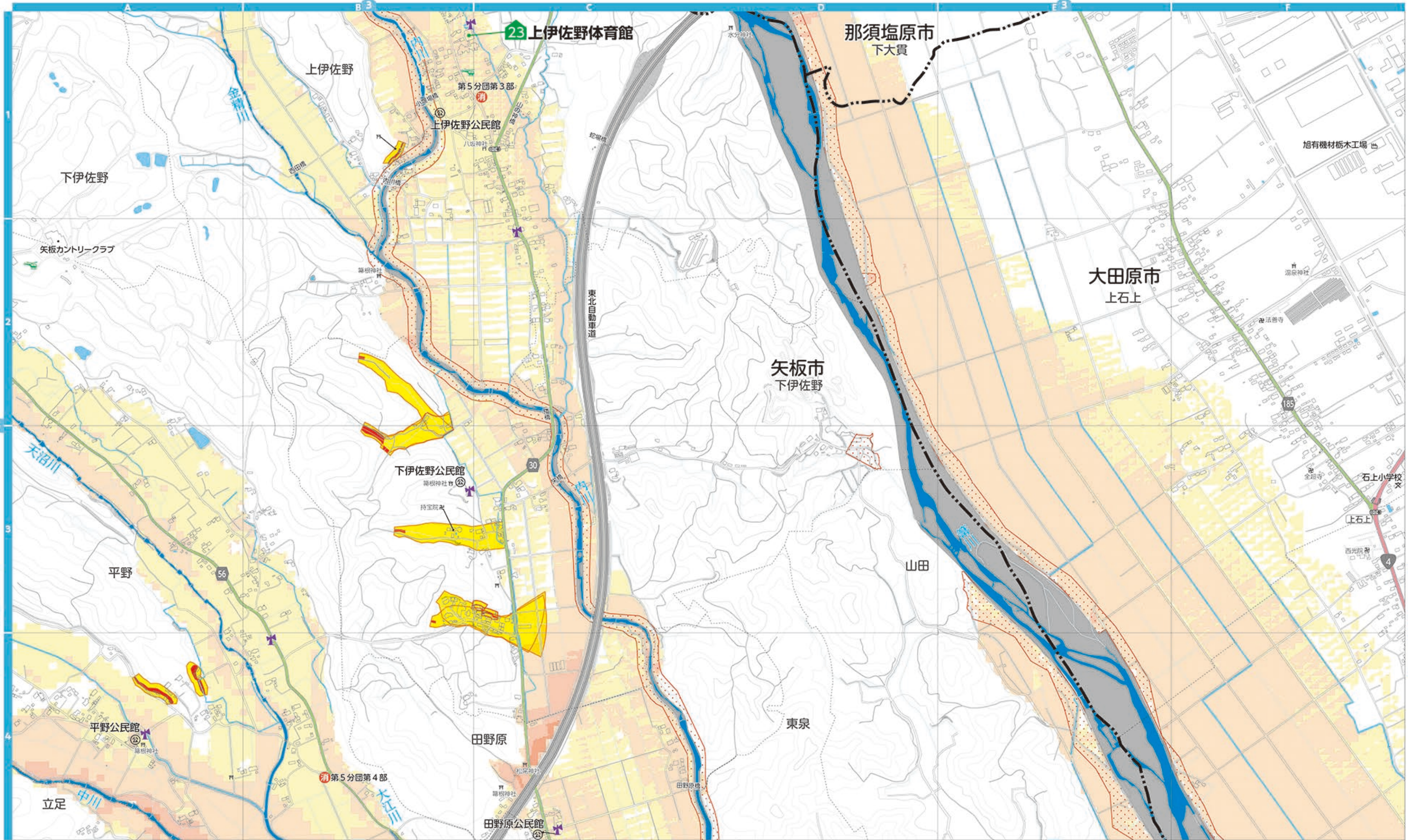
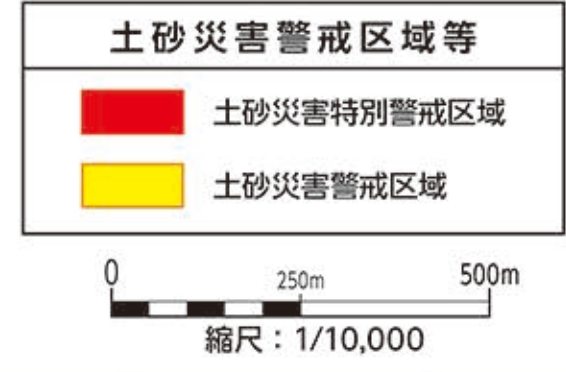


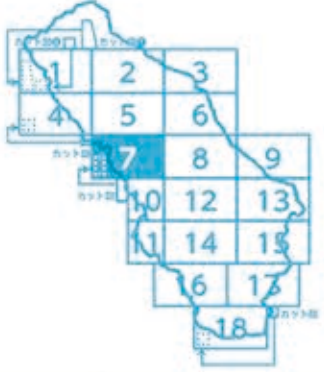
凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
00	指定緊急避難場所・指定避難所	AED	AED
公	自治公民館等	1	水位観測所・水位計
要	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)	1	ダム観測所
防	防災無線 子局位置	内水浸水想定区域	内水浸水想定区域
消	消防署	アンダーパス	アンダーパス
消	消防団	ランデブーポイント	ランデブーポイント
カ	河川カメラ	市役所	市役所
		医療機関	医療機関
		交番・駐在所	交番・駐在所
		郵便局	郵便局
		大規模工場	大規模工場
		高速道路	高速道路
		国道	国道
		主要地方道・県道	主要地方道・県道





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
指定緊急避難場所・指定避難所	AED	医療機関	
自治公民館等	水位観測所・水位計	交番・駐在所	
要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)	ダム観測所	郵便局	
防災無線 子局位置	内水浸水想定区域	大規模工場	
消防署	アンダーパス	高速道路	
消防団	ランデブーポイント	国道	
河川カメラ	市役所	主要地方道・県道	

### 河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

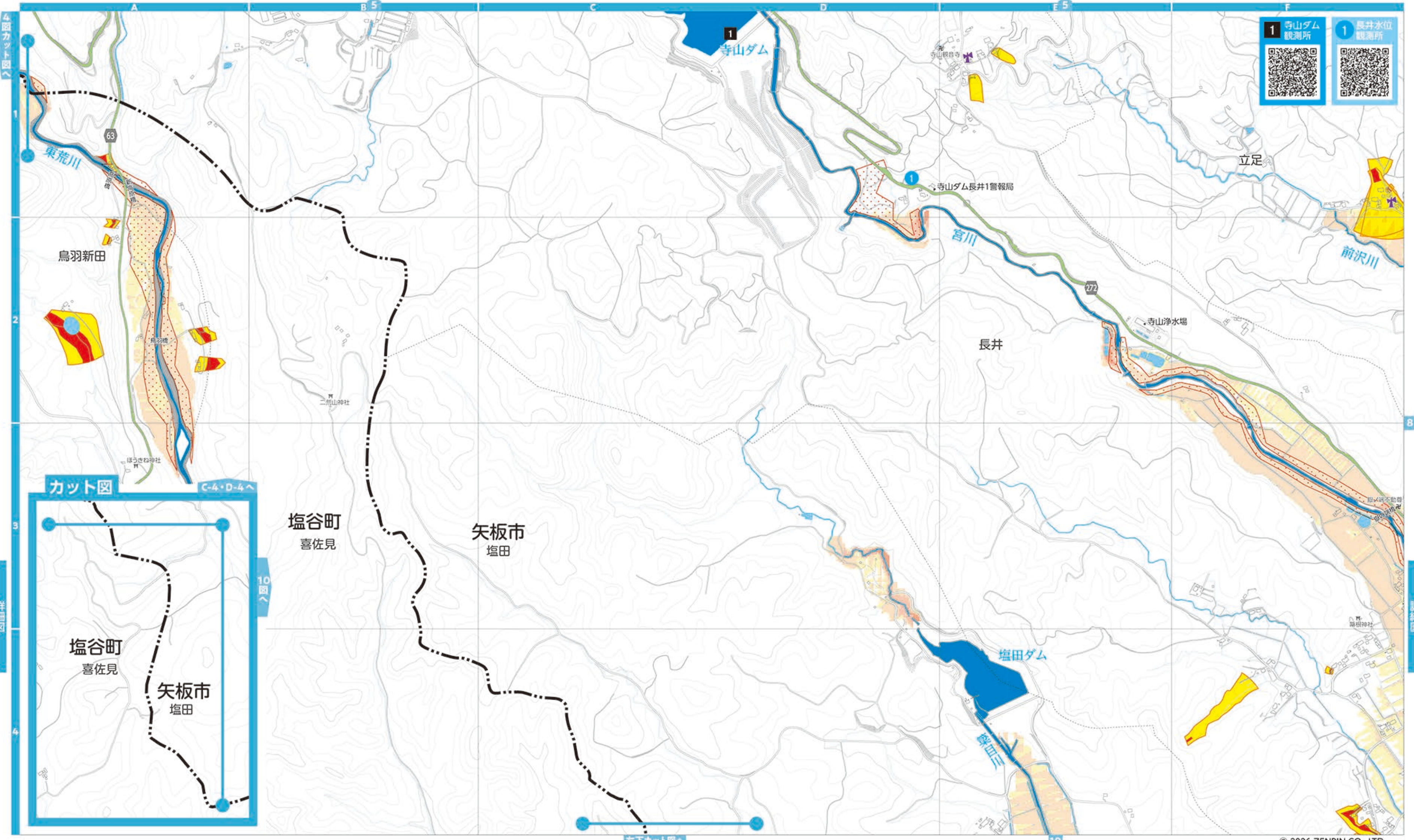
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

### 土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

縮尺：1/10,000



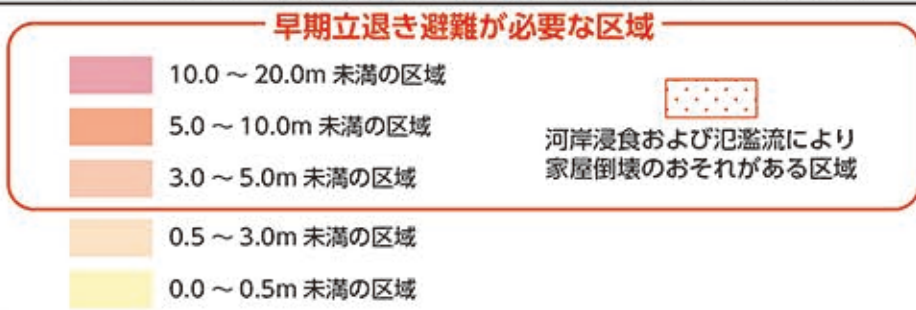
1 寺山ダム観測所

1 長井水位観測所

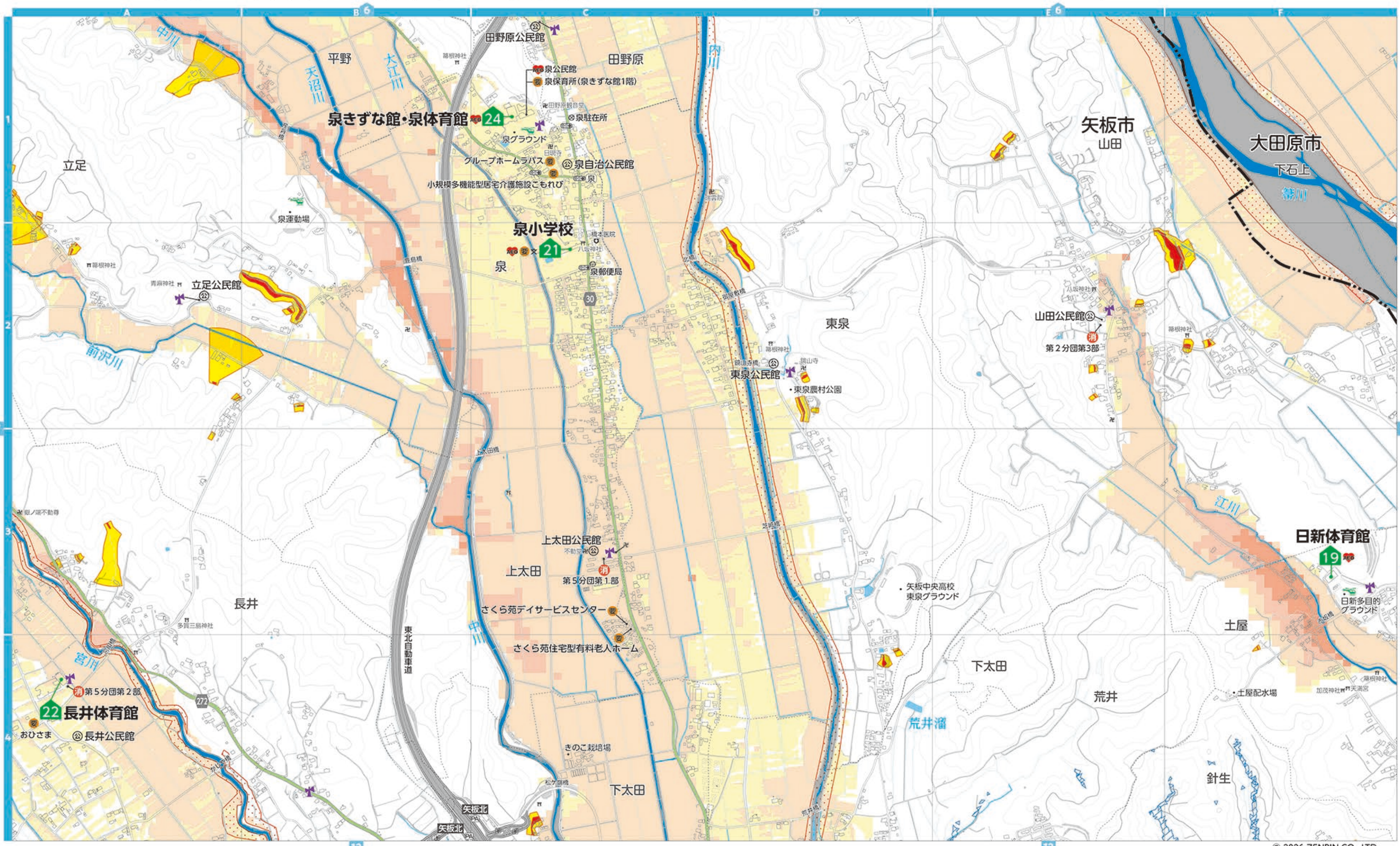
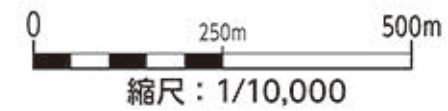
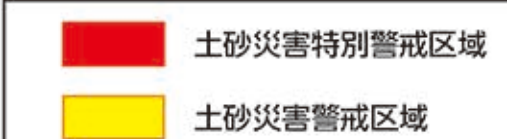


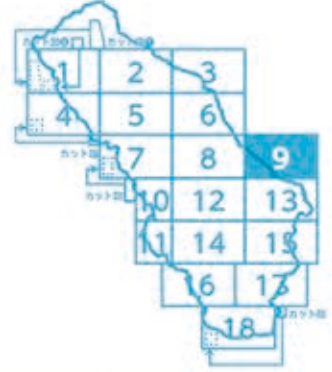
凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

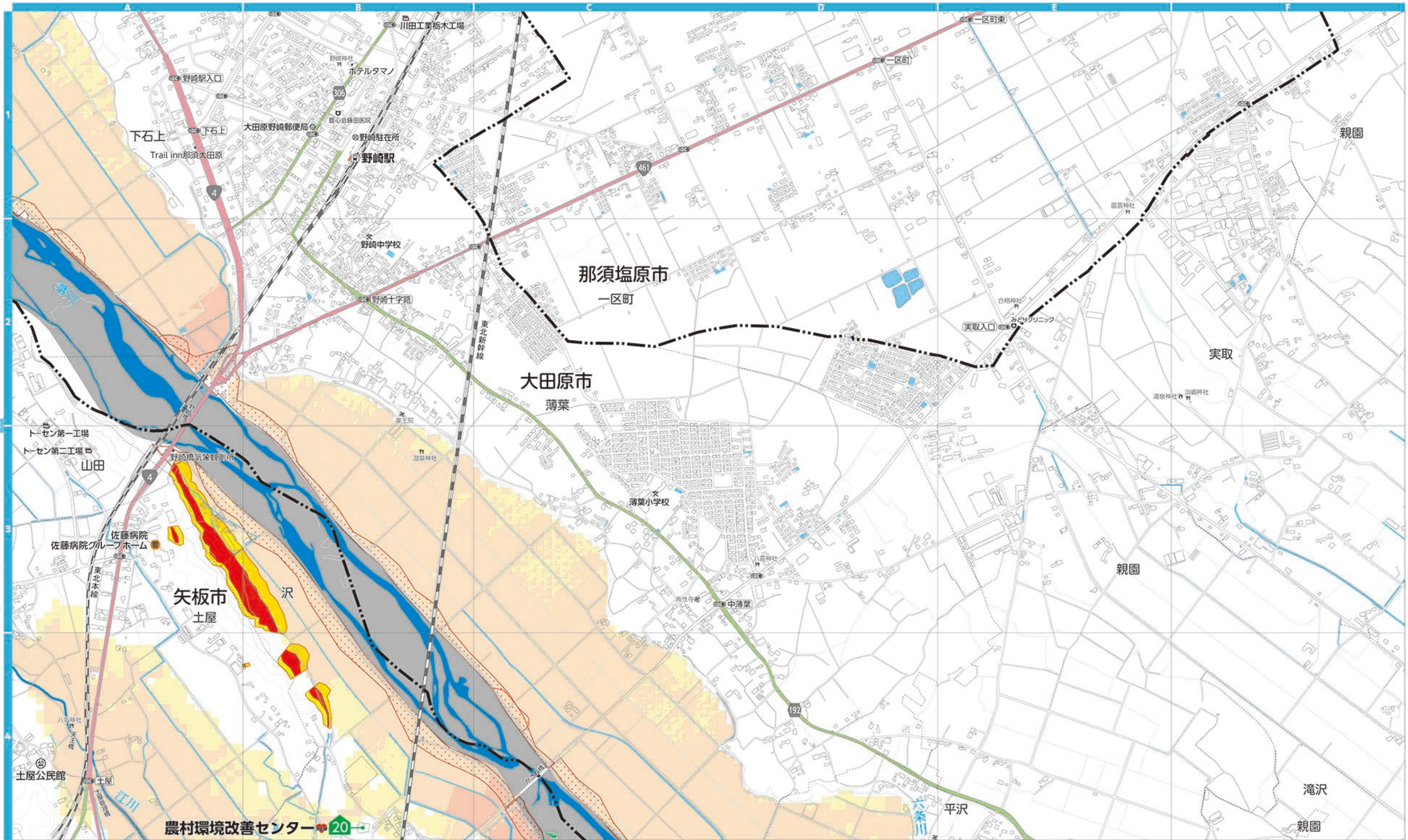
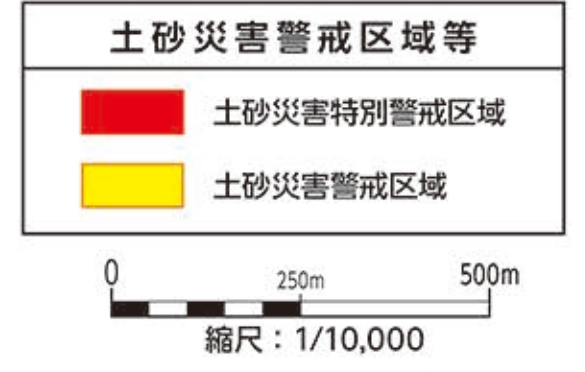


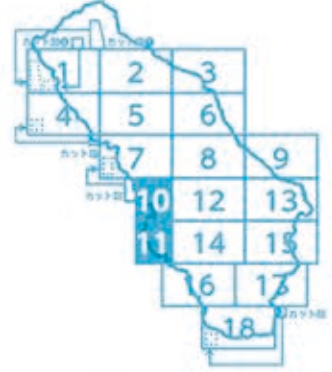
土砂災害警戒区域等



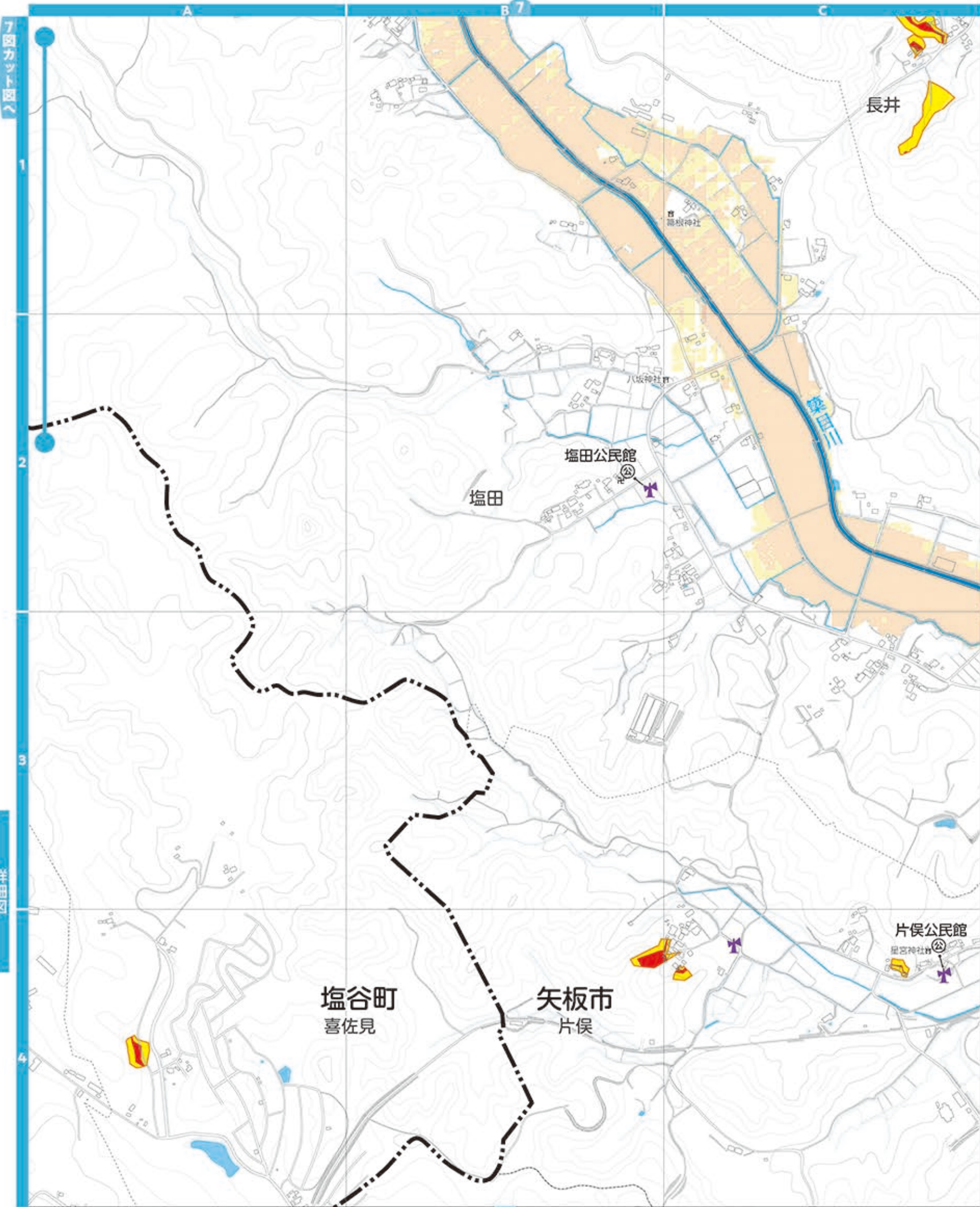


凡 例			
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道



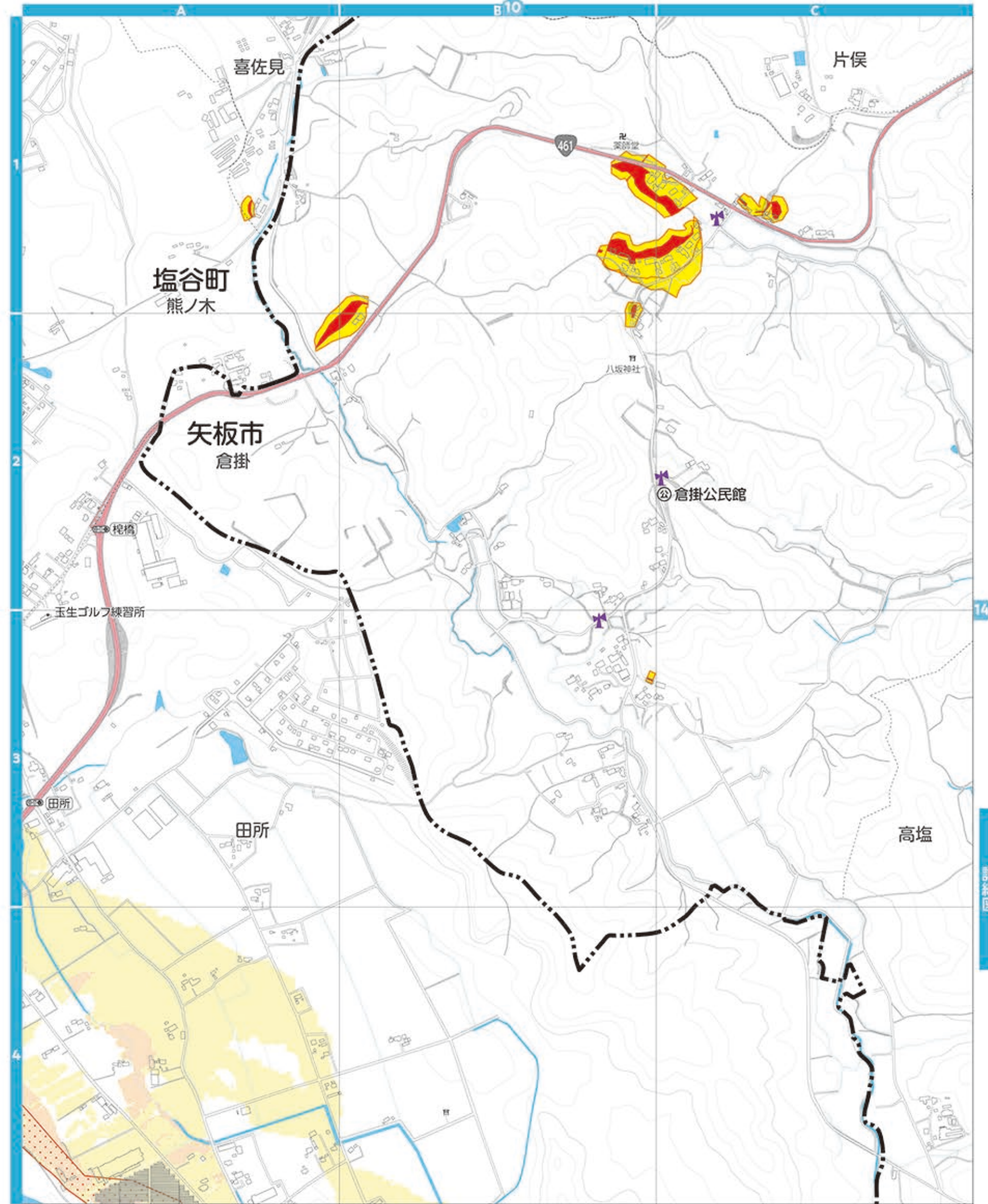


凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
	医療機関		交番・駐在所
	郵便局		大規模工場
	高速道路		国道
	主要地方道・県道		



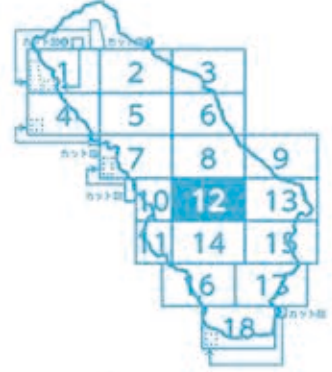
河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)	
早期立退き避難が必要な区域	
	10.0 ~ 20.0m 未満の区域
	5.0 ~ 10.0m 未満の区域
	3.0 ~ 5.0m 未満の区域
	0.5 ~ 3.0m 未満の区域
	0.0 ~ 0.5m 未満の区域

河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域



土砂災害警戒区域等	
	土砂災害特別警戒区域
	土砂災害警戒区域

縮尺：1/10,000



凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
指定緊急避難場所・指定避難所	AED	医療機関	
自治公民館等	水位観測所・水位計	交番・駐在所	
要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)	ダム観測所	郵便局	
防災無線 子局位置	内水浸水想定区域	大規模工場	
消防署	アンダーパス	高速道路	
消防団	ランデブーポイント	国道	
河川カメラ	市役所	主要地方道・県道	

### 河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

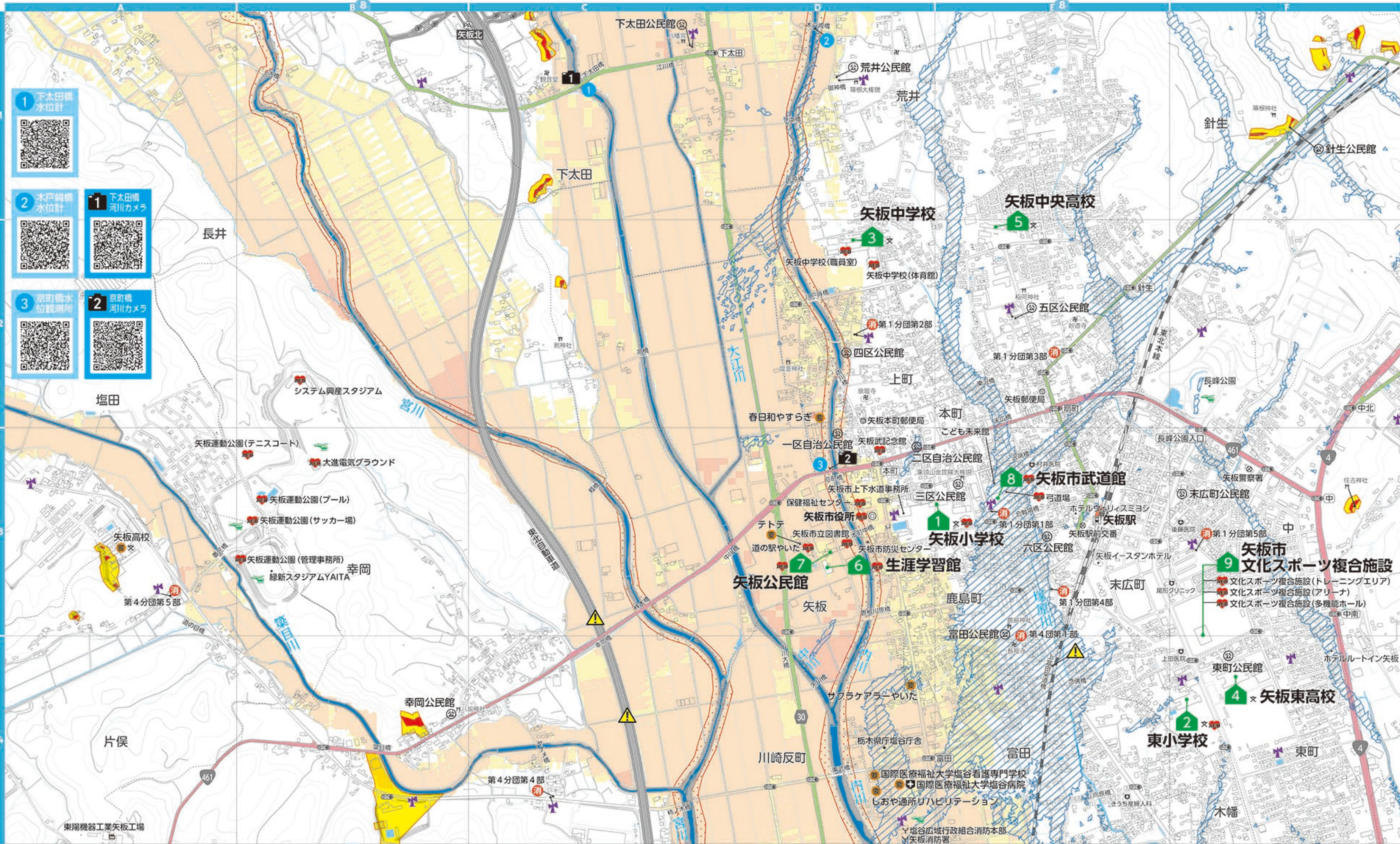
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

### 土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

縮尺: 1/10,000



1 下太田橋 水位計

2 本戸橋 水位計

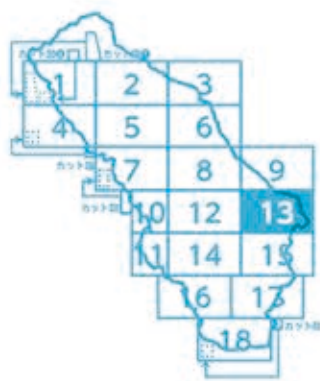
3 京町橋 水位観測所

1 下太田橋 河川カメラ

2 京町橋 河川カメラ

9 矢板市文化スポーツ複合施設

- 文化スポーツ複合施設(トレーニングエリア)
- 文化スポーツ複合施設(アリーナ)
- 文化スポーツ複合施設(多機能ホール)



凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

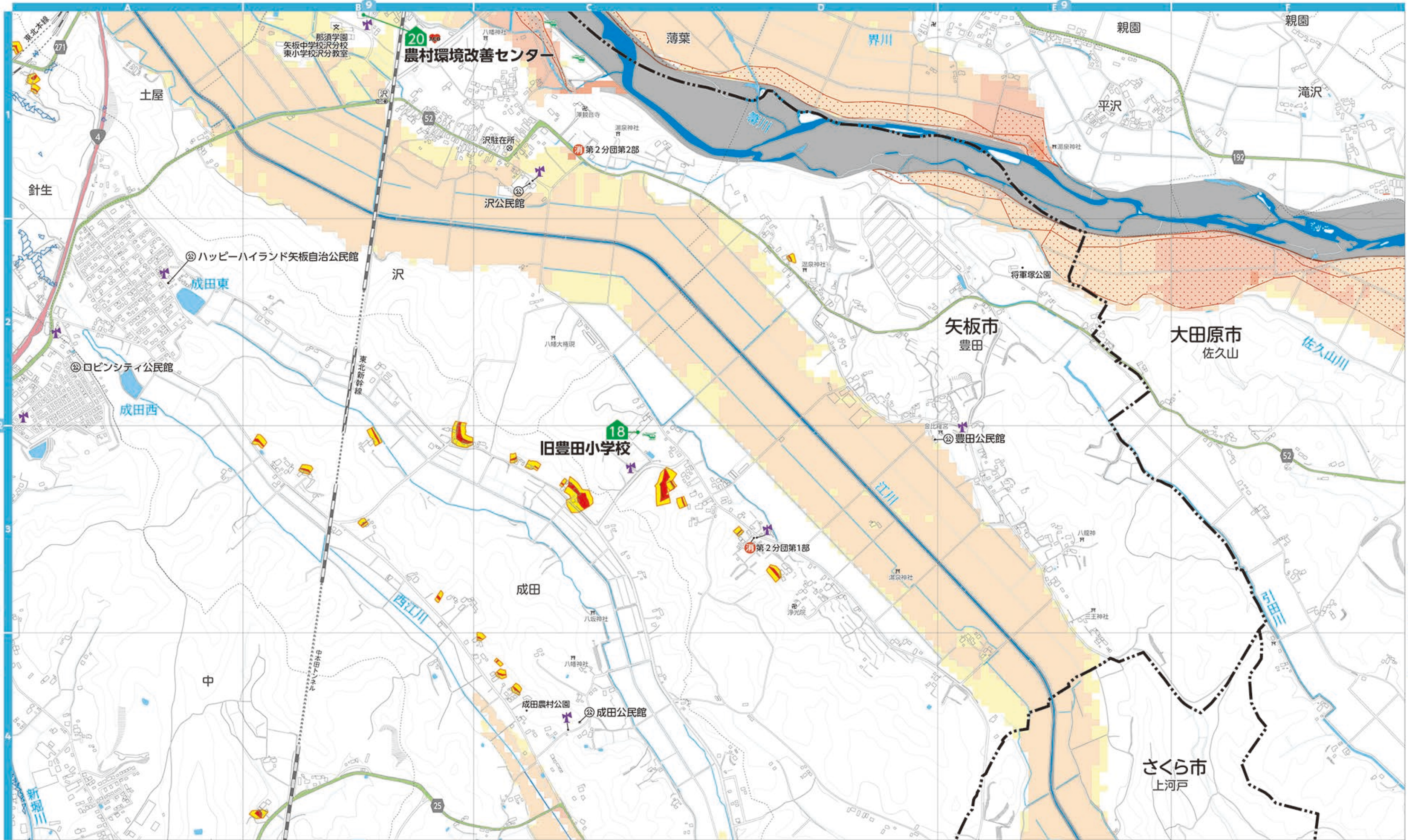
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

土砂災害警戒区域等

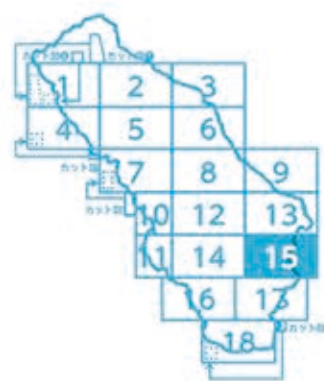
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

0 250m 500m

縮尺：1/10,000







凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	防災無線 子局位置		アンダーパス
	防災無線 子局位置		ランデブーポイント
	防災無線 子局位置		国道
	消防署		高速道路
	消防団		主要地方道・県道
	河川カメラ		市役所

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

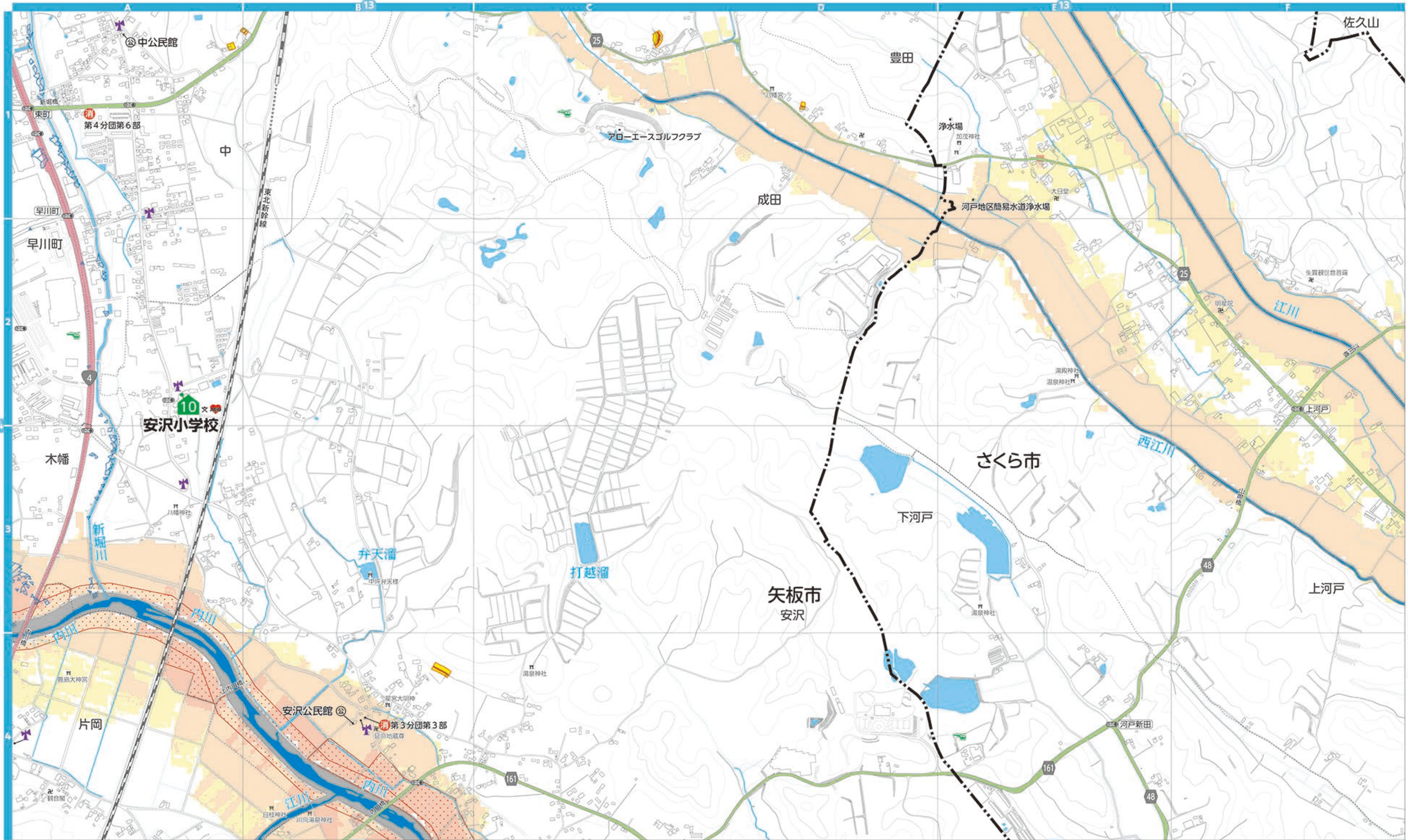
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

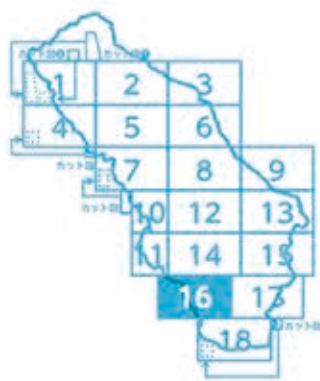
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

縮尺: 1/10,000





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
			医療機関
			交番・駐在所
			郵便局
			大規模工場
			高速道路
			国道
			主要地方道・県道

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

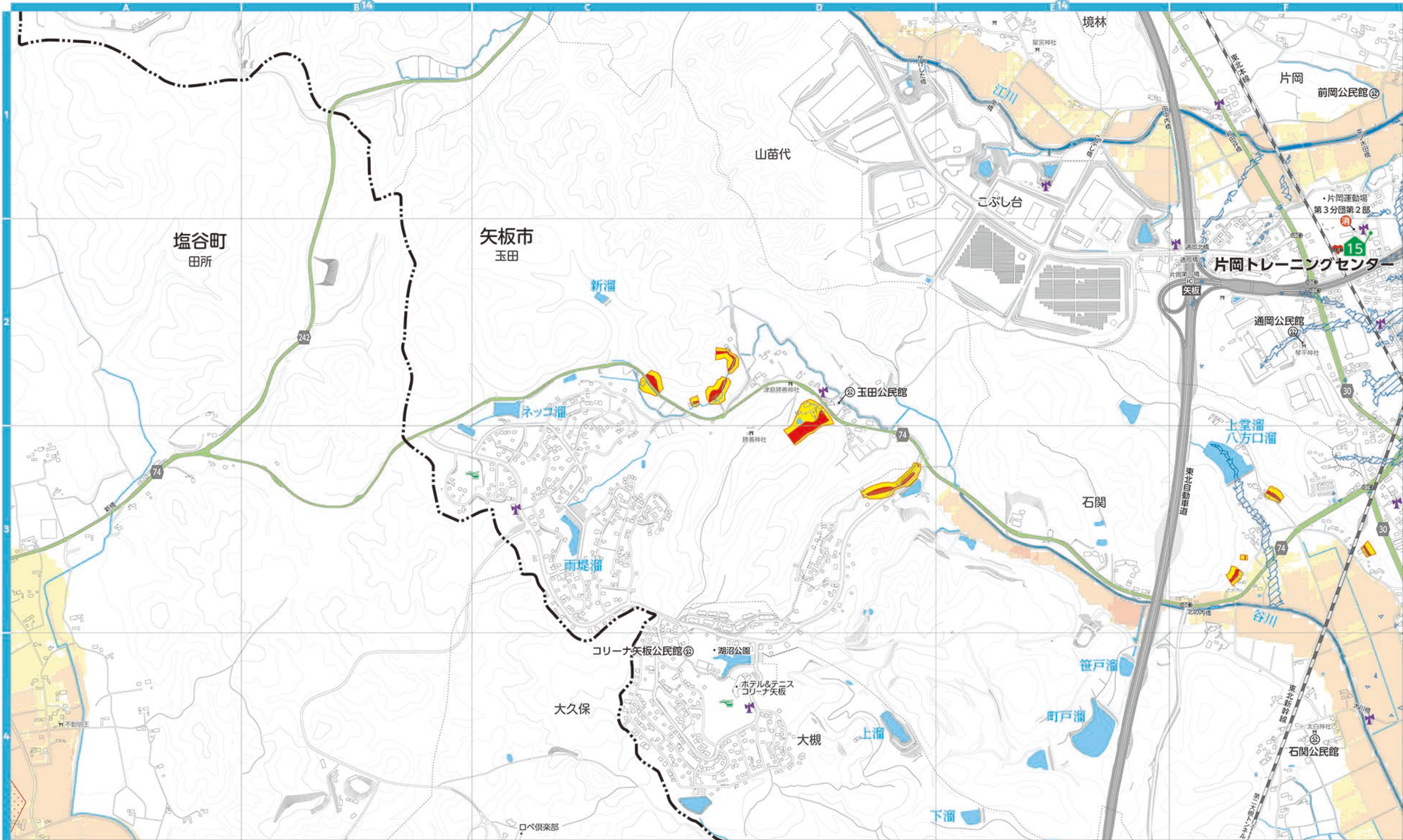
河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

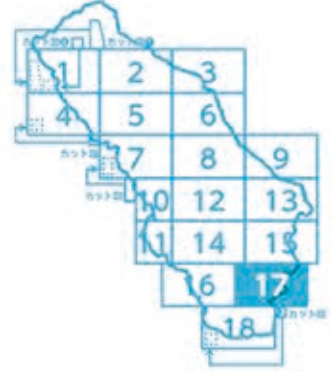
土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

0 250m 500m

縮尺：1/10,000





凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
	指定緊急避難場所・指定避難所		AED
	自治公民館等		水位観測所・水位計
	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)		ダム観測所
	防災無線 子局位置		内水浸水想定区域
	消防署		アンダーパス
	消防団		ランデブーポイント
	河川カメラ		市役所
	医療機関		市役所
	交番・駐在所		市役所
	郵便局		市役所
	大規模工場		市役所
	高速道路		市役所
	国道		市役所
	主要地方道・県道		市役所

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)

早期立退き避難が必要な区域

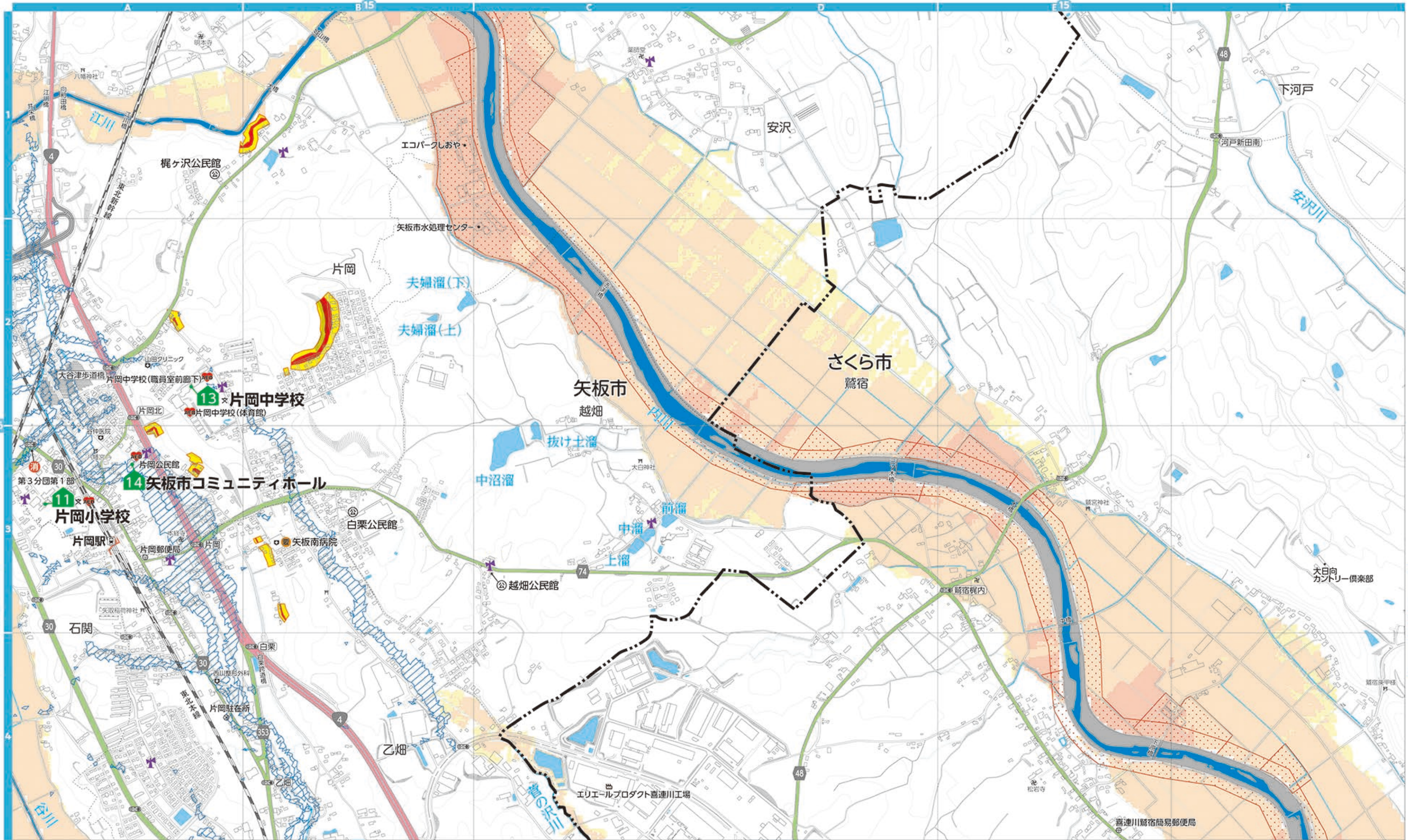
- 10.0 ~ 20.0m 未満の区域
- 5.0 ~ 10.0m 未満の区域
- 3.0 ~ 5.0m 未満の区域
- 0.5 ~ 3.0m 未満の区域
- 0.0 ~ 0.5m 未満の区域

河岸浸食および氾濫流により家屋倒壊のおそれがある区域

土砂災害警戒区域等

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

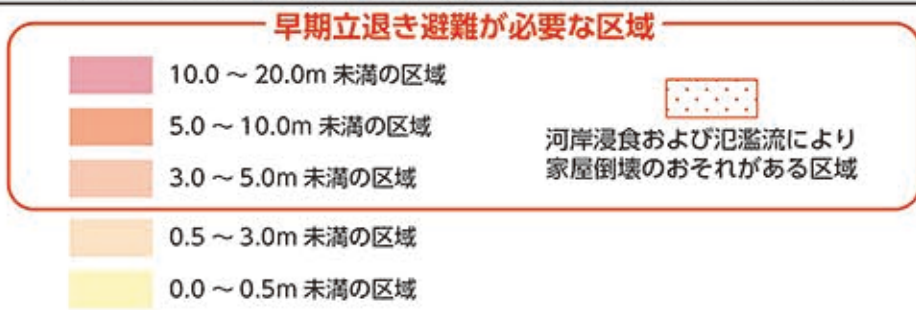
0 250m 500m  
縮尺：1/10,000



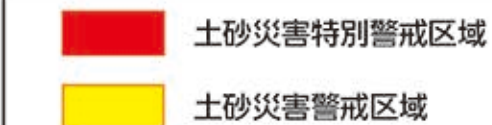


凡 例		凡 例	
地図記号	表示項目	地図記号	表示項目
00	指定緊急避難場所・指定避難所	AED	AED
公	自治公民館等	1	水位観測所・水位計
要	要配慮者利用施設(土砂・浸水想定エリア内)	1	ダム観測所
防	防災無線 子局位置	内水浸水想定区域	内水浸水想定区域
消	消防署	アンダーパス	アンダーパス
消	消防団	ランデブーポイント	ランデブーポイント
カ	河川カメラ	市役所	市役所
		医療機関	医療機関
		交番・駐在所	交番・駐在所
		郵便局	郵便局
		大規模工場	大規模工場
		高速道路	高速道路
		国道	国道
		主要地方道・県道	主要地方道・県道

河川洪水浸水想定区域 (浸水した場合の想定される水深)



土砂災害警戒区域等



縮尺：1/10,000

